

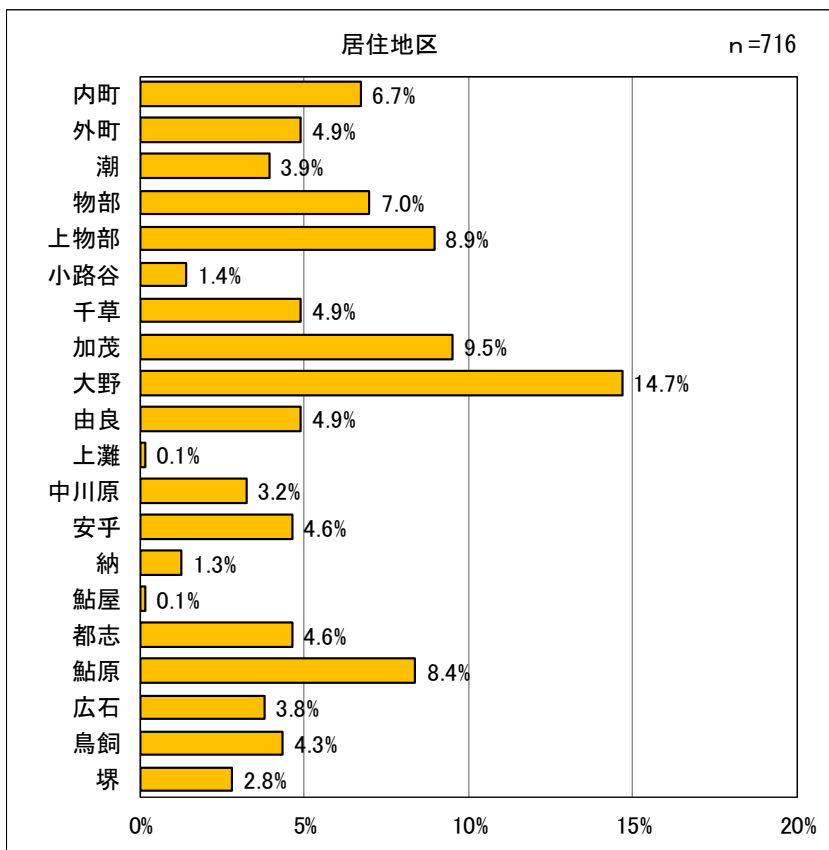
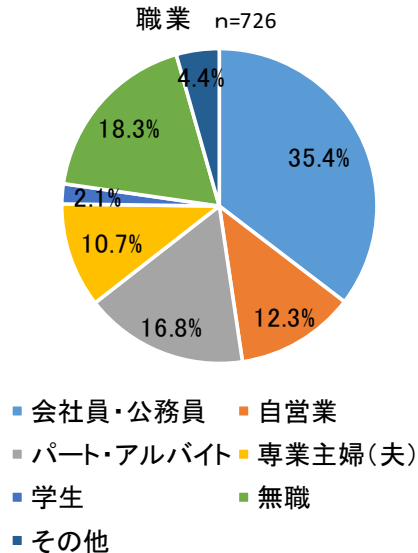
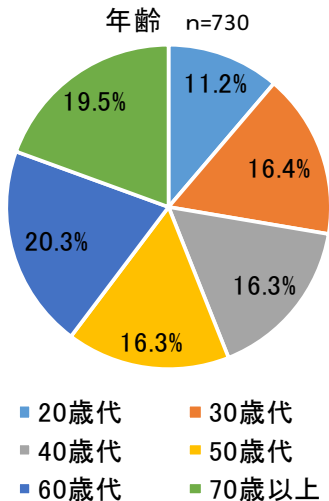
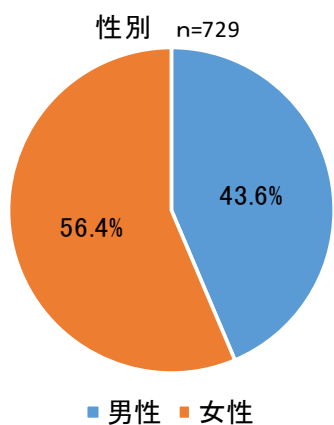
洲本市都市計画マスタープラン 資料編

(市民意向調査結果)

※合計値や「n(回答者合計値)」からは無回答を除くため、項目ごとに数値が異なる。

1 回答者の属性

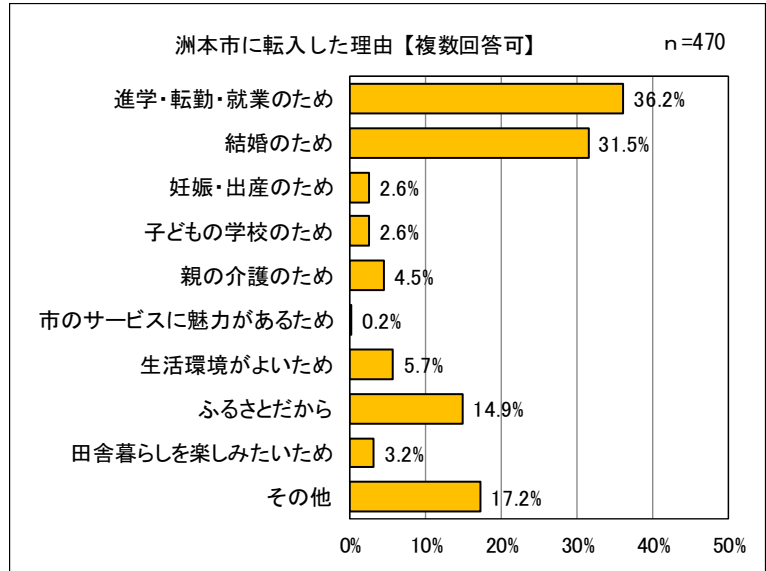
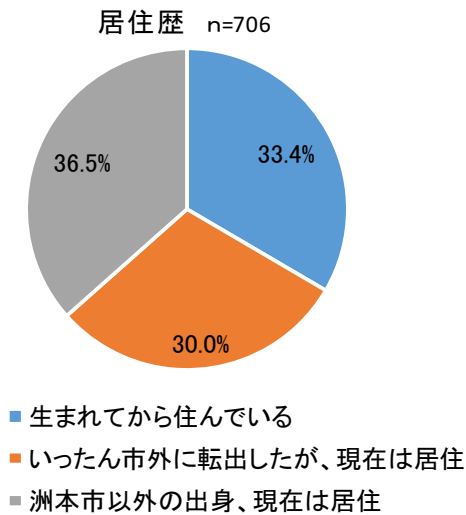
- ・回答者は、「男性」が43.6%、「女性」が56.4%とやや女性に偏る。
- ・年齢については、「60歳代」が最多で20.3%、最も少ないのは「20歳代」で11.2%である。
- ・職業は「会社員・公務員」が35.4%と最も多く、次いで「無職」が18.3%である。
- ・居住地区は、「大野」(14.7%)が突出して高く、それ以外は1割未満となっている。



2 洲本市について

2.1 洲本市での居住歴

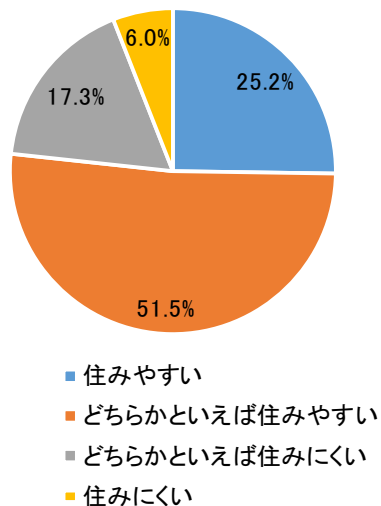
- ・どれも3割を超えるが、「市以外の出身、現在は居住」が36.5%と若干多い。
- ・「いったん市街に転出したが、現在は居住」、「洲本市以外の出身、現在は居住」を選んだ回答者における UJ ターンの原因としては、「進学・転職・就業のため」、「結婚のため」の二項目が特に高く、それぞれ 36.2%、31.5%となっている。



3 洲本市のすみやすさ

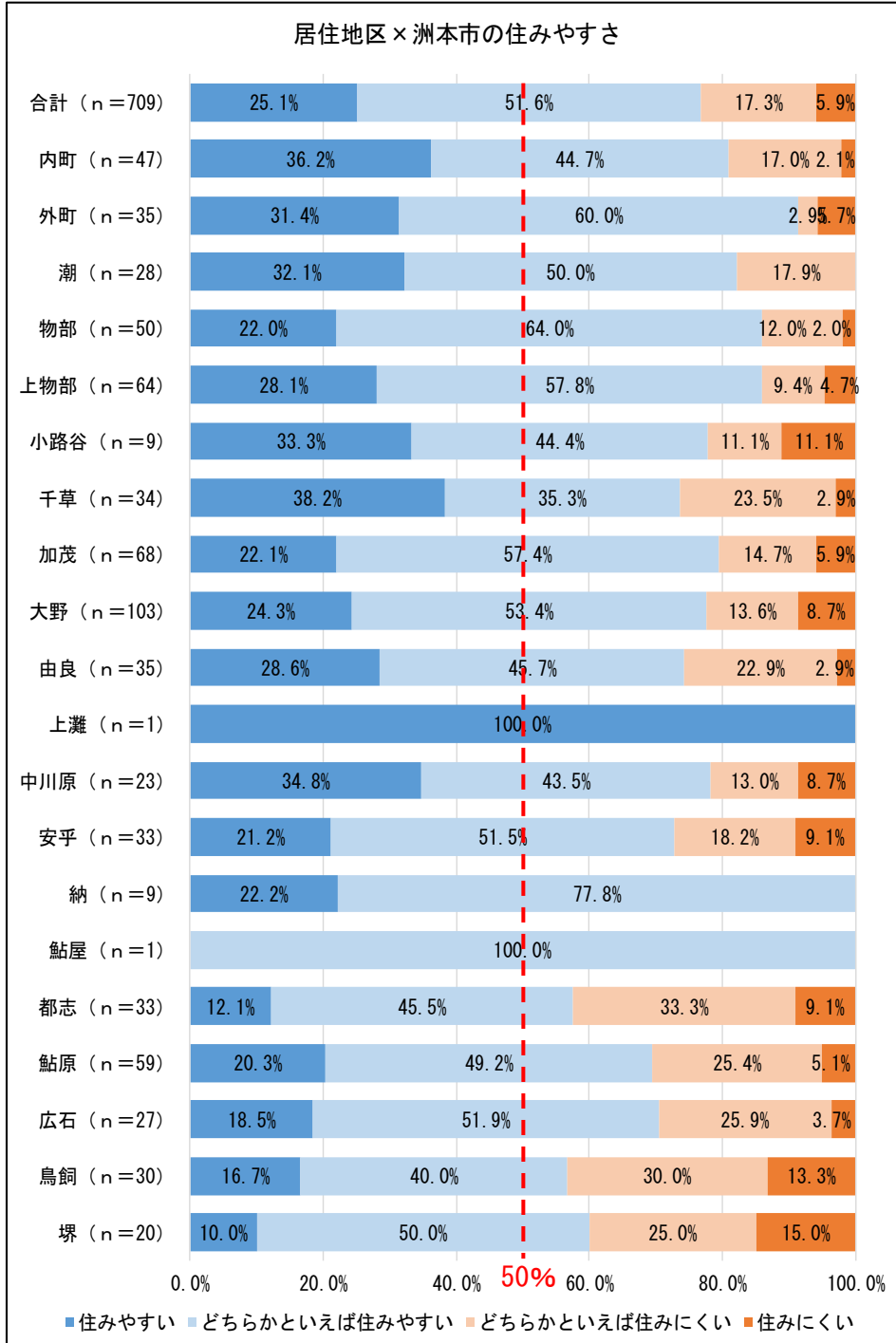
- ・「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」を合わせて見ると76.7%にのぼる。

洲本市の住みやすさについて n=721



3.1 居住地区別 洲本市の住みやすさ

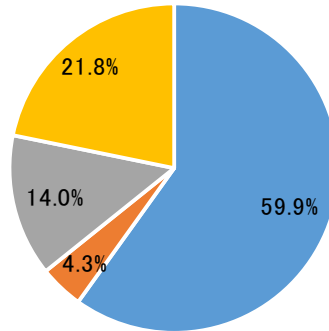
・地区ごとでも、すべての地区において、50%以上は「住みやすい」または「どちらかといえば住みやすい」と感じている。
 ・五色地域(都志・鮎原・広石・鳥飼・堺)については、「どちらかといえば住みにくい」と回答した割合が 25%以上いる。



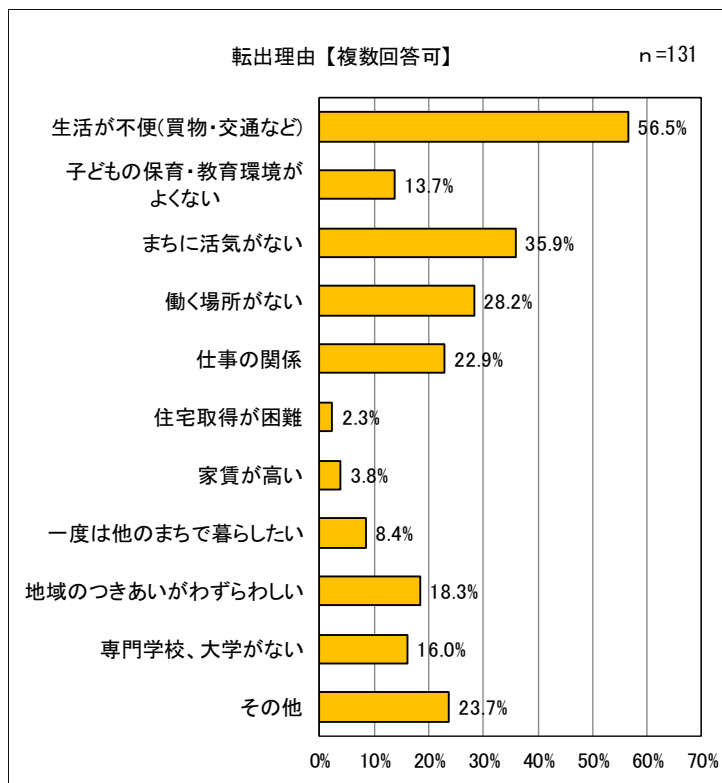
4 今後の意向

- ・「これからも暮らし続けたい」が約 60%にのぼる。
- ・転出の予定や希望がある回答者は合わせて 17.3%で、その理由として最も高いのは「生活が不便」(56.5%)であり、半数以上を占める。
- ・次いで、「まちに活気がない」(35.9%)、「働く場所がない」(28.2%)となっている。

洲本市に暮らし続けたいか n=716

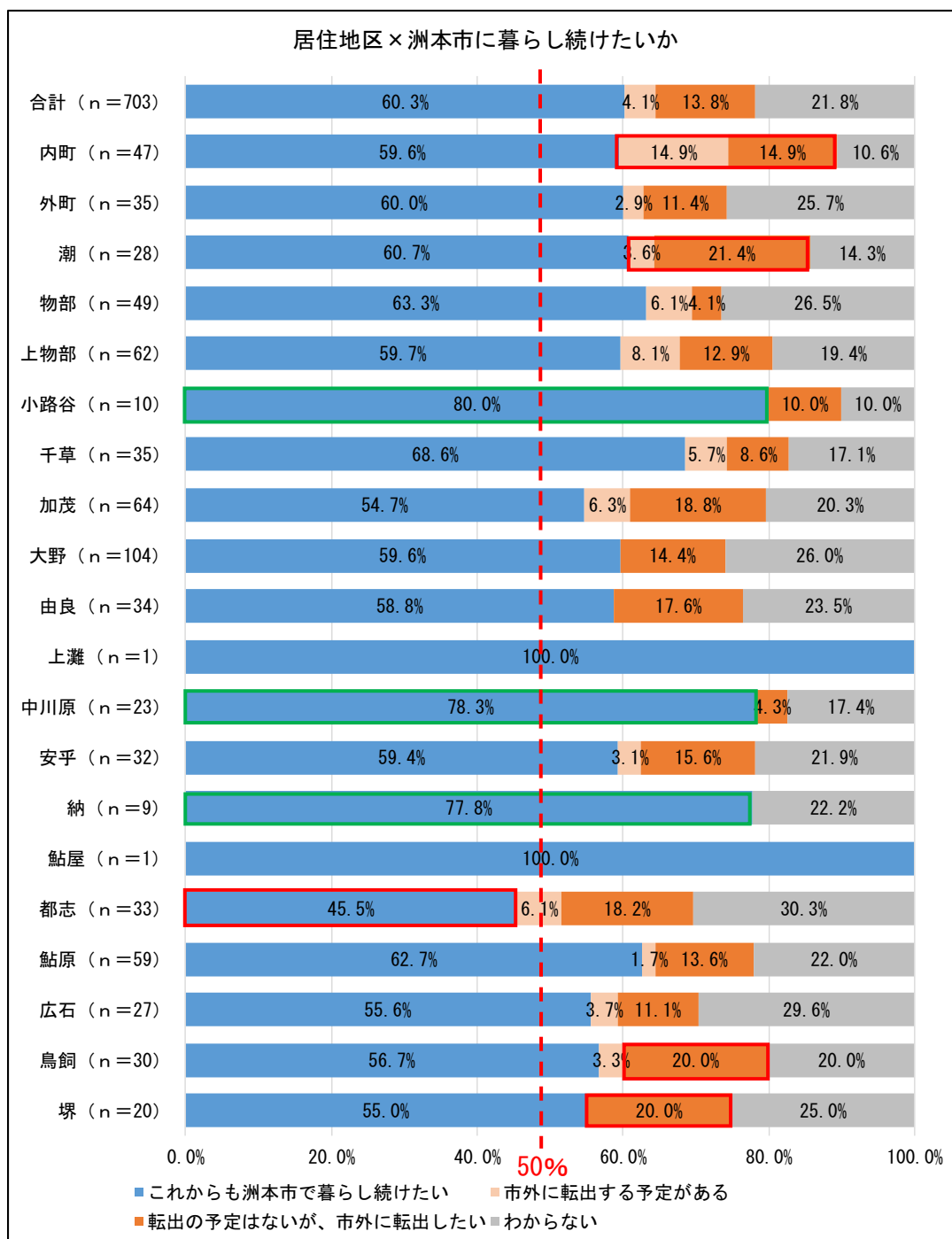


- これからも洲本市で暮らし続けたい
- 市外に転出する予定がある
- 転出の予定はないが、市外に転出したい
- わからない



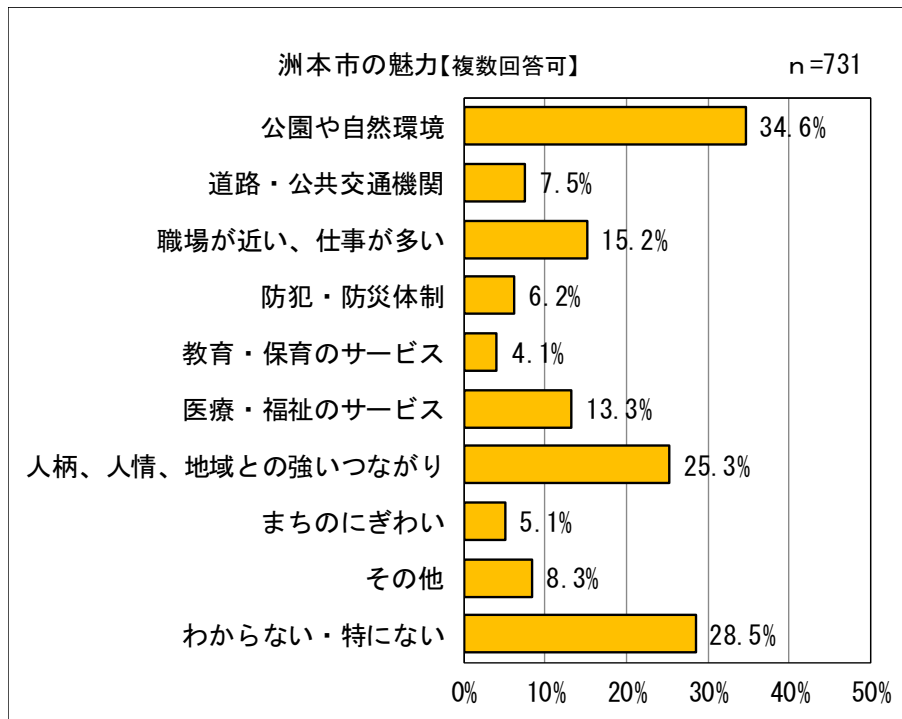
4.1 居住地区別 洲本市に暮らし続けたいか

- ・ほとんどの地区で「これからも洲本市で暮らし続けたい」と回答した割合が 50%以上であるが、都志(45.5%)は唯一 50%以下で、合計の値(60.3%)より 14.8 ポイント低い。
- ・有効回答数nが2以上の地区のうち、小路谷、中川原、納において約8割の方が、「これからも洲本市で暮らし続けたい」と回答した。
- ・内町は、「市外に転出する予定がある。」と回答した割合が 14.9%と最も高く、「転出の予定はないが、市街に転出したい」と回答した割合と合計すると、約3割の方に転出意向がある。
- ・「転出の予定はないが、市街に転出したい」と回答した割合が 20%以上であるのが、潮(21.4%)、鳥飼(20.0%)、堺(20.0%)である。



5 市の魅力

・「公園や自然環境」が34.6%と最多で、次点に「人柄、人情、地域との強いつながり」(25.3%)となっている。
・一方で「わからない・特にない」が28.5%にのぼる。



5.1 居住地区別 市の魅力

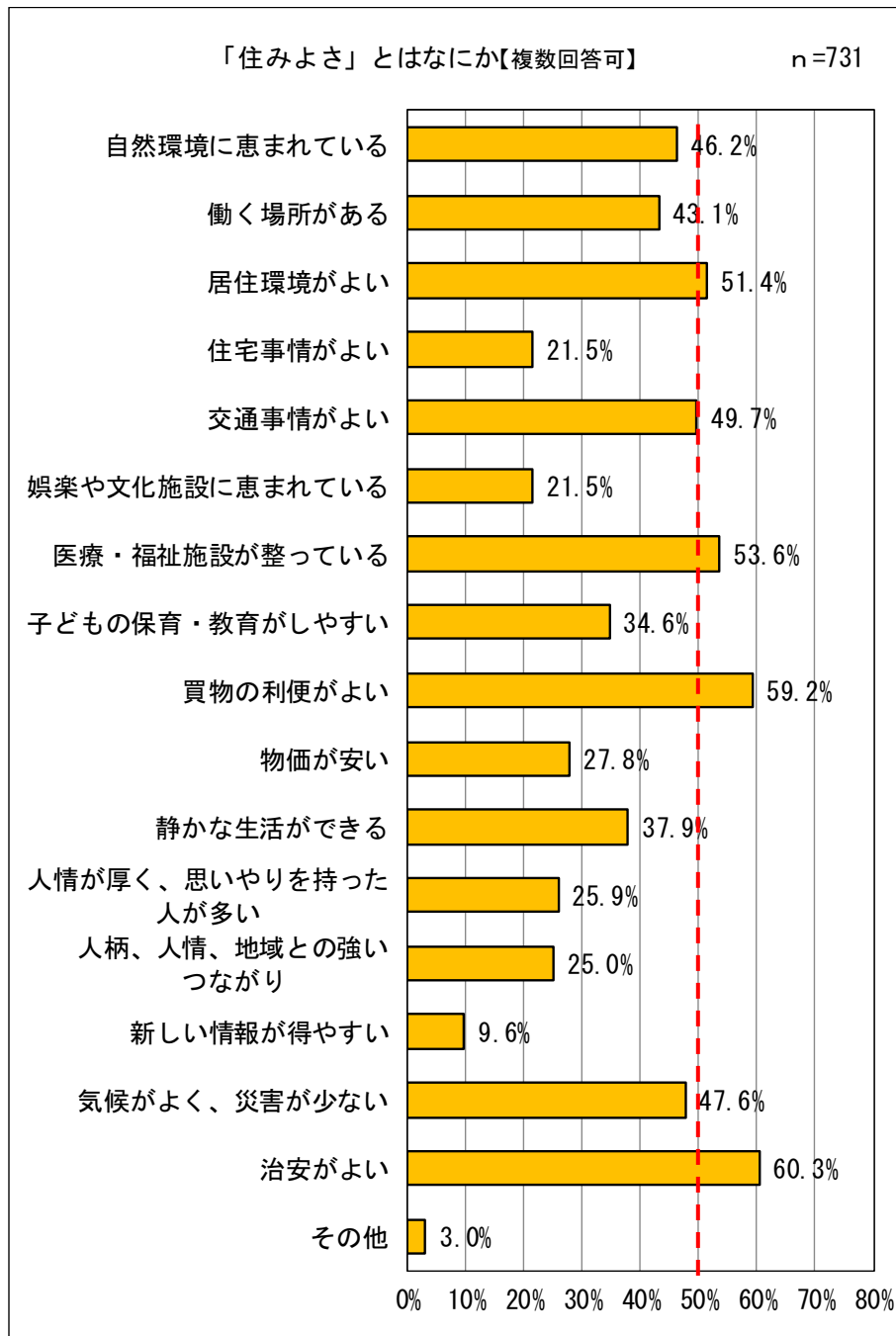
以下、回答者(n)が2人以上の地区について記載。

- ・「公園や自然環境」を選択した割合が5割を超えるのは、外町、千草である。そのほかすべての地区においても20.0%以上となっている。
- ・「道路・公共交通機関」を選択した割合は納が最も高く、33.3%である。次点で小路谷が20.0%である。
- ・「職場が近い、仕事が多い」を選択した割合が20%を超えるのは、外町、上物部、千草、納である。
- ・「医療・福祉のサービス」を選択した割合が20%を超えるのは、内町、上物部である。



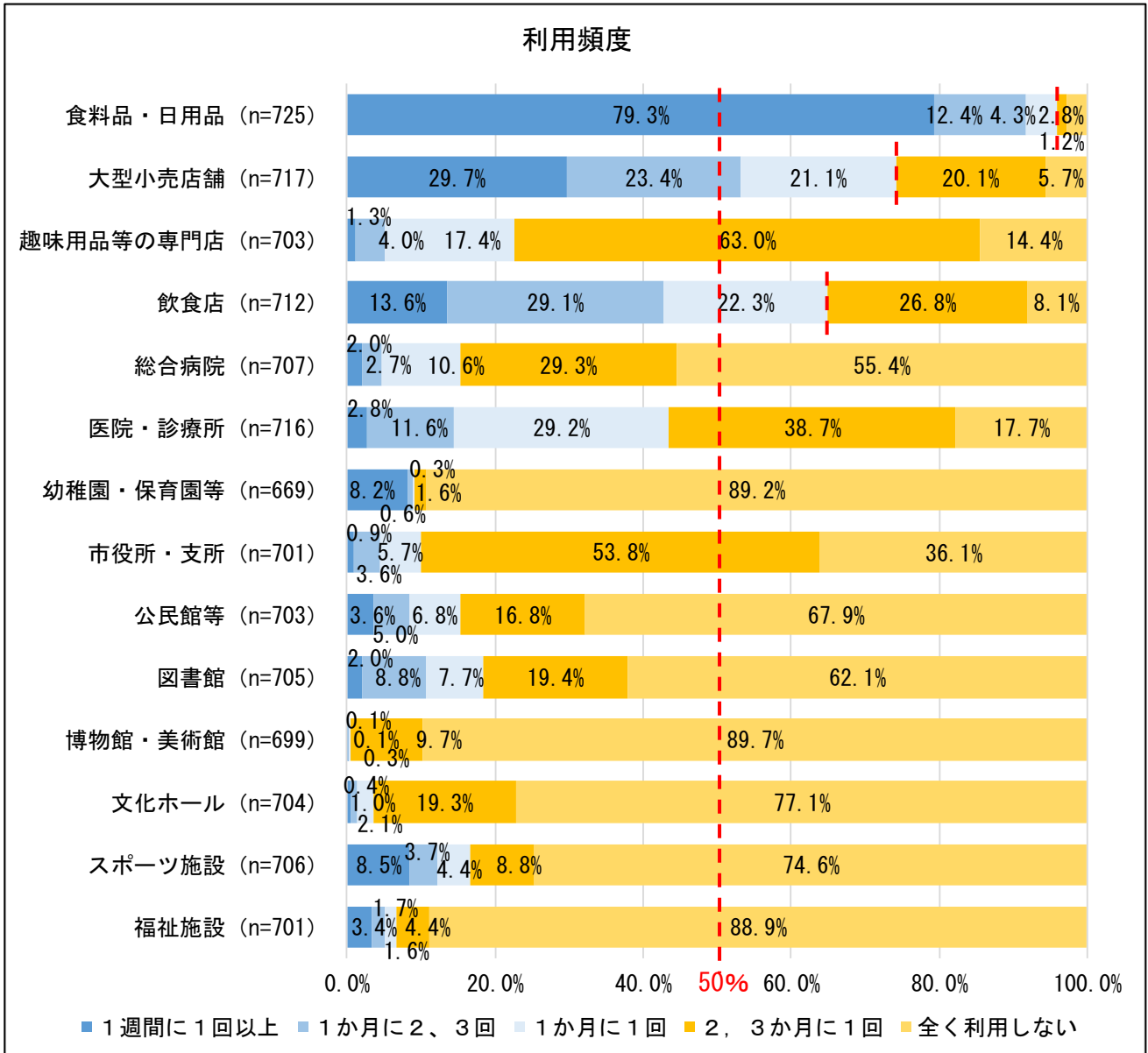
6 「住み良さ」とはなにか

- ・「居住環境がよい」、「医療・福祉施設が整っている」、「買い物の利便がよい」、「治安がよい」が 5 割を超えており、住民はこれらの項目を重視していることがわかる。
- ・一方で、「新しい情報が得やすい」は 1 割未満にとどまり特に関心が低い。また「住宅事情がよい」や、「娯楽や文化施設に恵まれている」についても共に 21.5%と低くなっている。



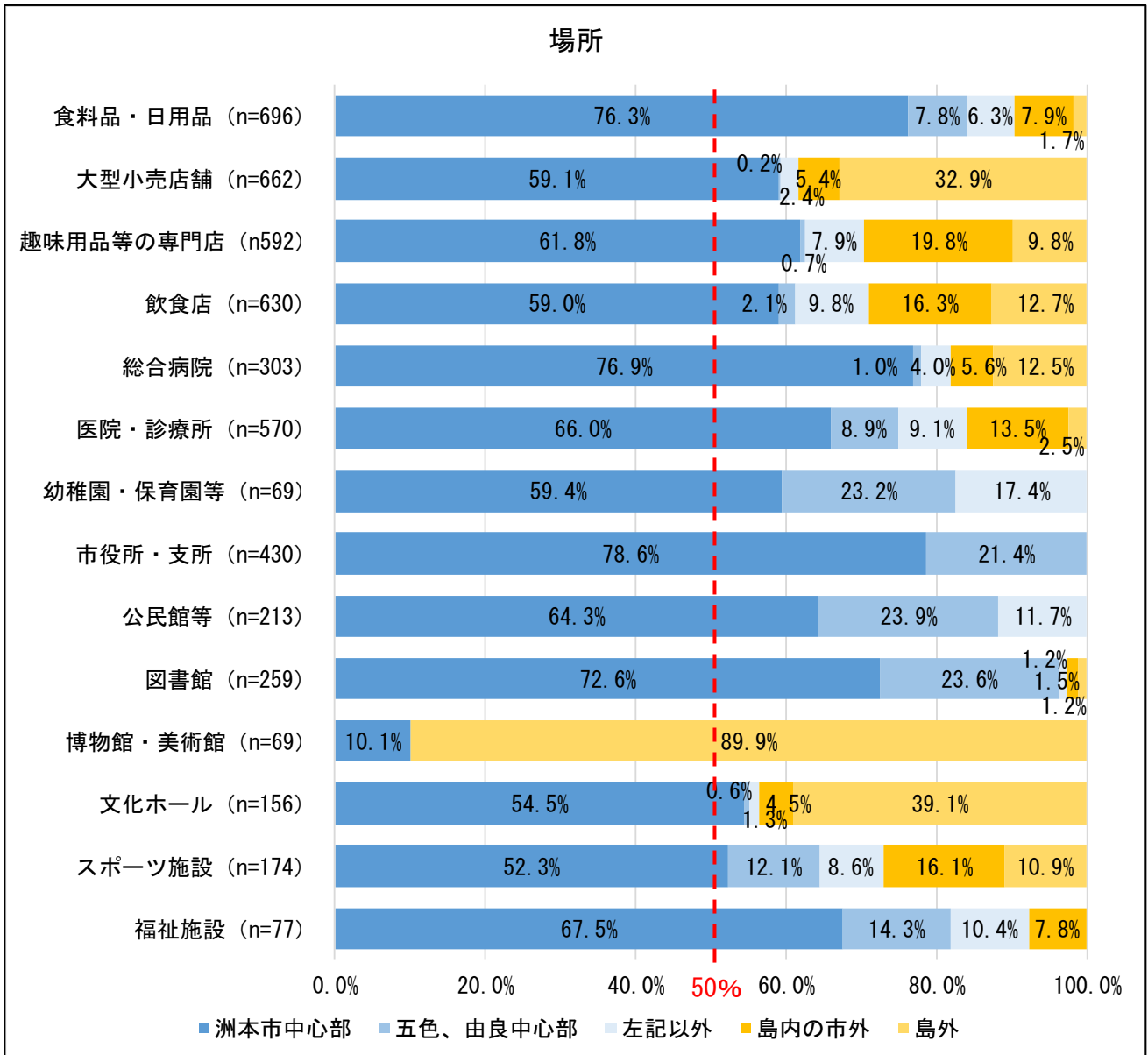
7 日常生活で利用する施設の利用頻度

- ・食料品・日用品は「1週間に1回以上」が最も多く79.3%にのぼる。次いで、大型小売店舗が29.7%、飲食店が13.6%となっている。これらの施設は6割以上が少なくとも「1か月に1回は利用する」と回答している。
- ・対象者が限られるため、「幼稚園・保育園等」、「福祉施設」は約9割が「全く利用しない」となっている一方で、「博物館・美術館」についても約9割が「全く利用しない」となっている。
- ・他、「全く利用しない」が過半数を占めるのは、「総合病院」、「公民館等」、「図書館」、「博物館・美術館」、「文化ホール」、「スポーツ施設」、「福祉施設」となっている。



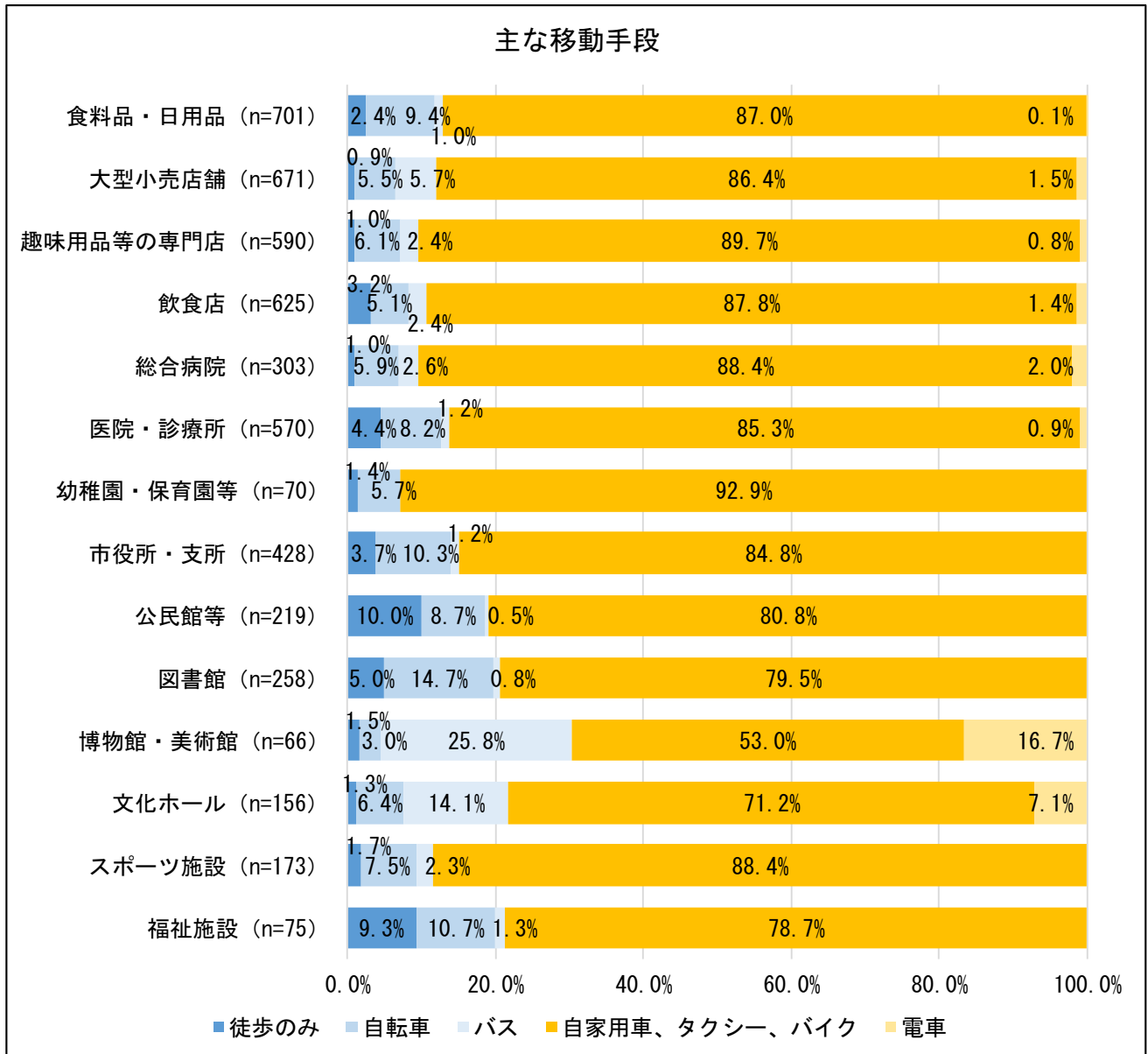
8 日常生活で利用する施設の場所

- ・利用する施設の場所の殆どで「洲本市中心部」が 5 割以上となっているが、「博物館、美術館」においては約 9 割が「島外」である。
- ・「博物館・美術館」に次いで、「文化ホール」、「大型小売店舗」についても島外の施設を利用する割合が高く、3割以上となっている。



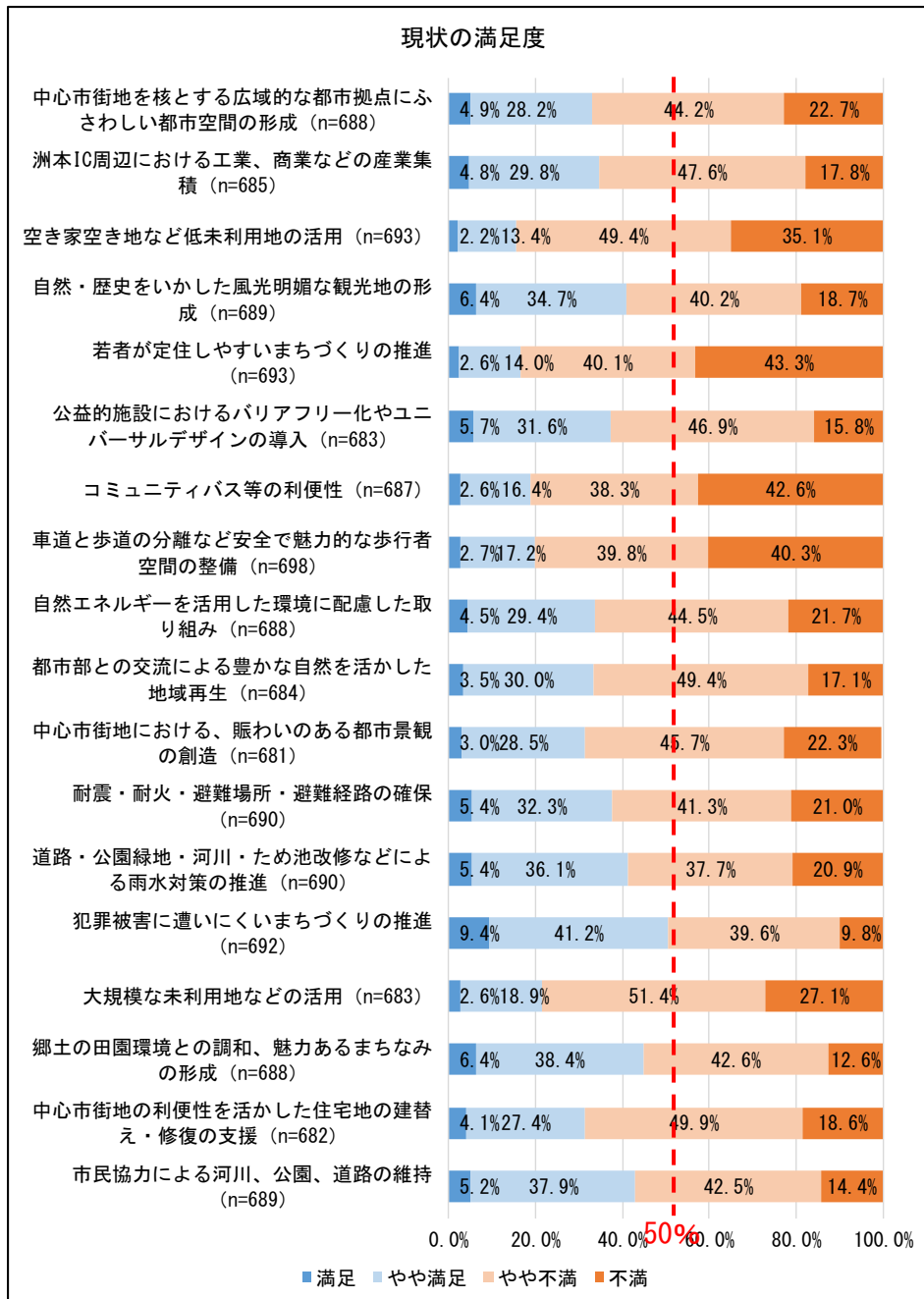
9 日常生活で利用する施設への交通手段

- ・全ての項目で「自家用車、タクシー、バイク」が最も高く、概ね約 8～9 割にのぼる。
- ・しかし、「博物館・美術館」では約 5 割にとどまり、代わって「バス」(25.8%)、「電車」(16.7%)の利用が高い。
- ・利用頻度の高い、「食料品・日用品」、「大型小売店舗」、「飲食店」への移動であっても、徒歩、自転車またはバスで移動する割合は低く、1割強にとどまっている。



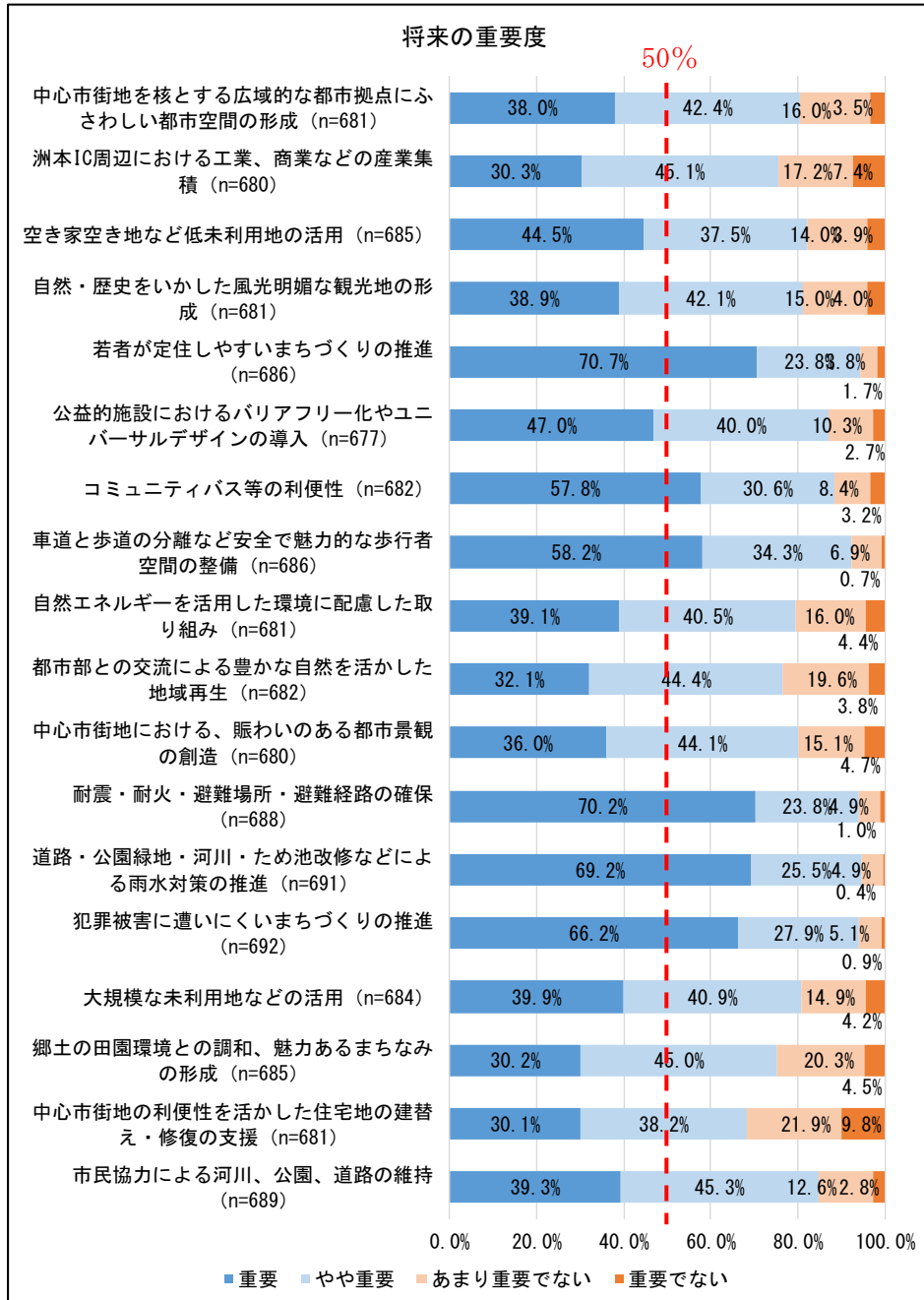
10 住み心地に対する満足度

- ・「満足」「やや満足」を合わせて見ると、「防犯(犯罪被害)」における割合が50.6%と特に高い。
- ・次いで、「田園環境との調和」(44.8%)、「都市施設(河川、公園、道路)」(43.1%)となっている。
- ・「やや不満」「不満」の合計が高いのは「空き家・空き地」(84.5%)、「若者の定住」(83.4%)、「大規模未利用地の活用」(78.5%)であり、8割前後にのぼる。
- ・「不満」と回答した割合が高いものに注目すると、「若者が定住しやすいまちづくりの推進(43.3%)」、「コミュニティバス等の利便性」(42.6%)、「車道と歩道の分離など安全で魅力的な歩行者空間の整備」(40.3%)が4割を上回っている。



11 まちづくりに重要だと思う事

- ・「重要」「やや重要」を合わせて見ると、「若者の定住」、「防災(耐震・避難場所等)」、「雨水対策」、「防犯(犯罪被害)」で9割を超える。
- ・「あまり重要でない」「重要でない」が高いのは「中心市街地の住宅建て替え」であり、3割を超える。



11.1 CS 分析結果

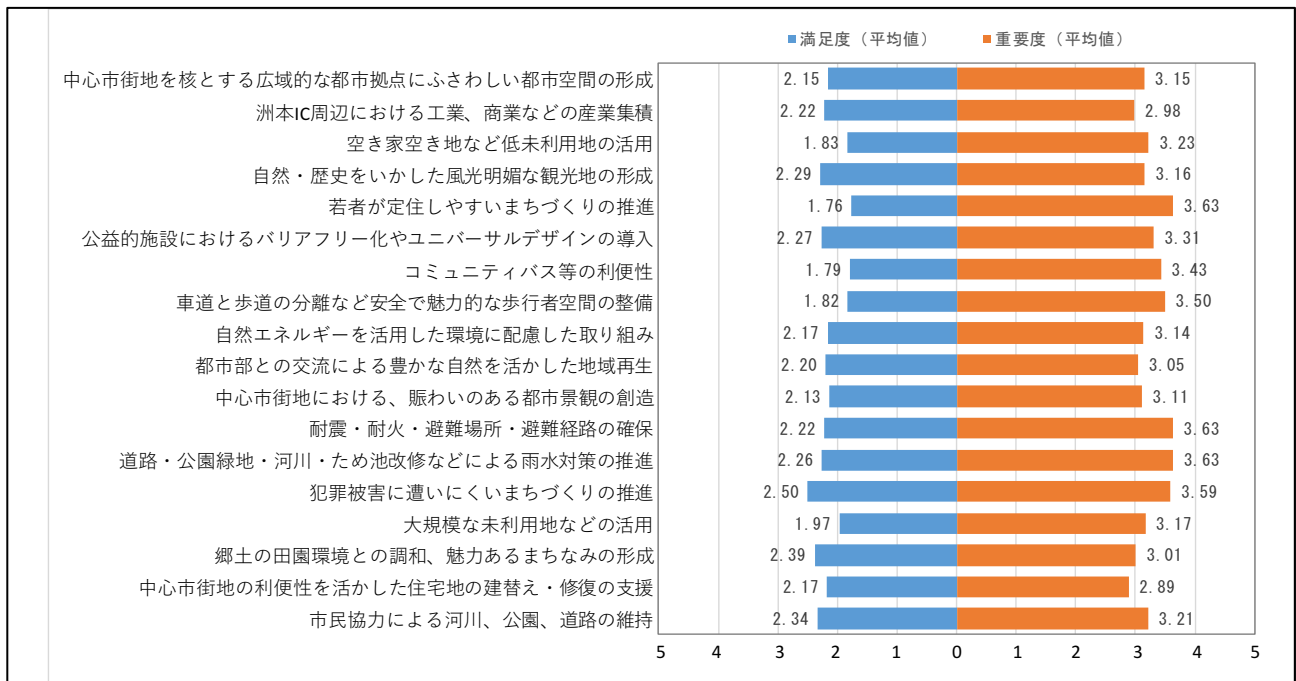
CS(customer satisfaction:顧客満足度)分析は、「顧客満足度分析」といい、民間企業が「お客様に満足していただくために何をどのように提供していくか」を考えるために実施する分析である。近年自治体においても、市民を顧客と見立てて分析を行う取り組みがなされている。

点数表示でみた場合

洲本市の住み心地をどのように感じているかの「満足度」と、住みよいまちづくりのためには、何が重要かの「重要度」を点数化し、分析を行った。

満足度は、「満足」4点、「やや満足」3点、「やや不満」2点、「不満」1点とし、平均点の算出を行った。「重要度」も同様に「重要」4点、「やや重要」3点、「あまり重要でない」2点、「重要でない」1点とし、平均点の算出を行った。また「無回答」については除外して平均を算出した。

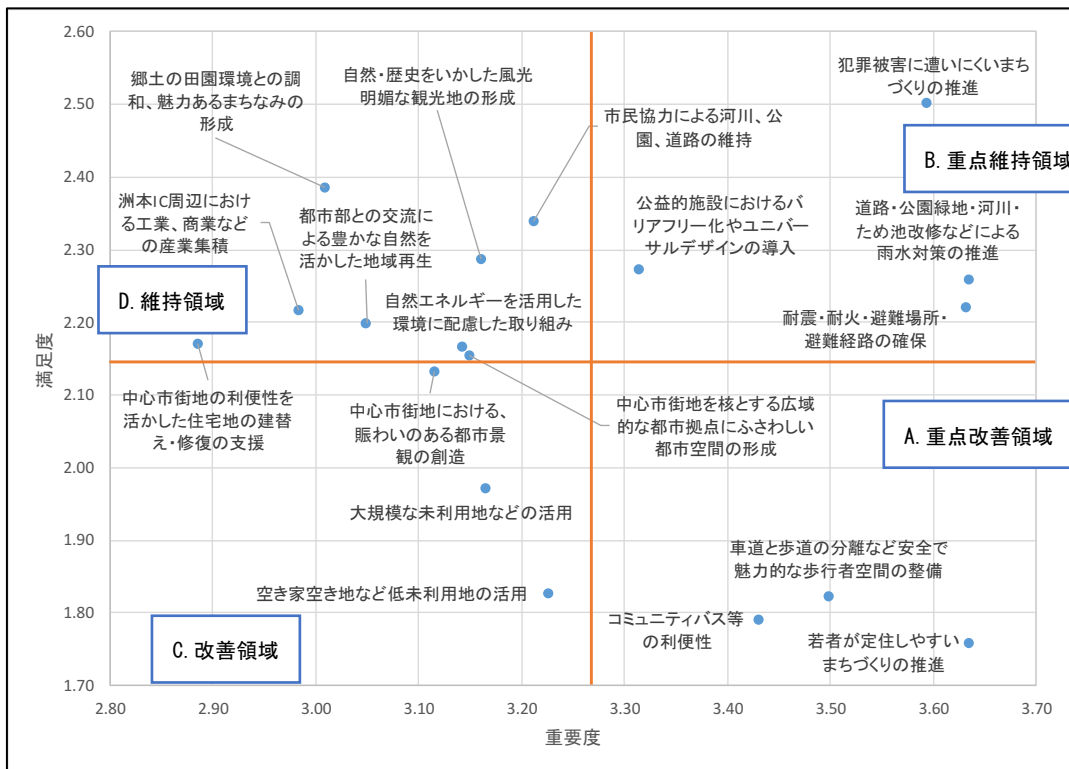
- ・満足度が高かった項目としては、「犯罪被害に遭いにくいまちづくりの推進」である。
- ・重要度が高かった項目としては、「若者が定住しやすいまちづくりの推進」、「耐震・耐火・避難場所・避難経路の確保」、「道路・公園緑地・河川・ため池改修などによる雨水対策の推進」、「犯罪被害に遭いにくいまちづくりの推進」である。



以下の図は、縦軸に満足度、横軸に重要度をとり、まちづくりに関する項目の調査結果をそれぞれ 4 点満点で評価したものを布置した。

- 「A.重点改善領域」重要度が高いにもかかわらず、満足度が低い
⇒特に優先的に整備を検討する必要がある項目
- 「B.重点維持領域」重要度、満足度共に高い
⇒高い質による維持管理を今後も続ける必要がある項目
- 「C.改善領域」重要度はそれほど高くないものの、満足度が低い
⇒改善の必要性があれば検討する項目
- 「D.維持領域」満足度が高いものの、重要度が低い項目
⇒選択と集中の観点から、整備の優先度が低い項目

- ・「A.重点改善領域」に属するものとしては、「若者が定住しやすいまちづくりの推進」、「車道と歩道の分離など安全で魅力的な歩行者空間の整備」、「コミュニティバス等の利便性」などが挙げられた。
- ・「B.重点維持領域」には、「道路・公園緑地・河川・ため池改修などによる薄い対策の推進」、「耐震・耐火・避難場所・避難経路の確保」、「犯罪被害に遭いにくいまちづくりの推進」、「公共的施設におけるバリアフリー化やユニバーサルデザインの導入」といった安全・安心に関わる項目が属している。
- ・また、「空き家空き地等低未利用地の活用」や、「大規模な未利用地などの活用」といった未利用地の活用が満足度・重要度共に低く、C.改善領域に属している。
- ・D.維持領域には、「郷土の田園環境との調和、魅力あるまちなみの形成」や「都市部との交流による豊かな自然を活かした地域再生」といった自然環境に関する項目が属する。

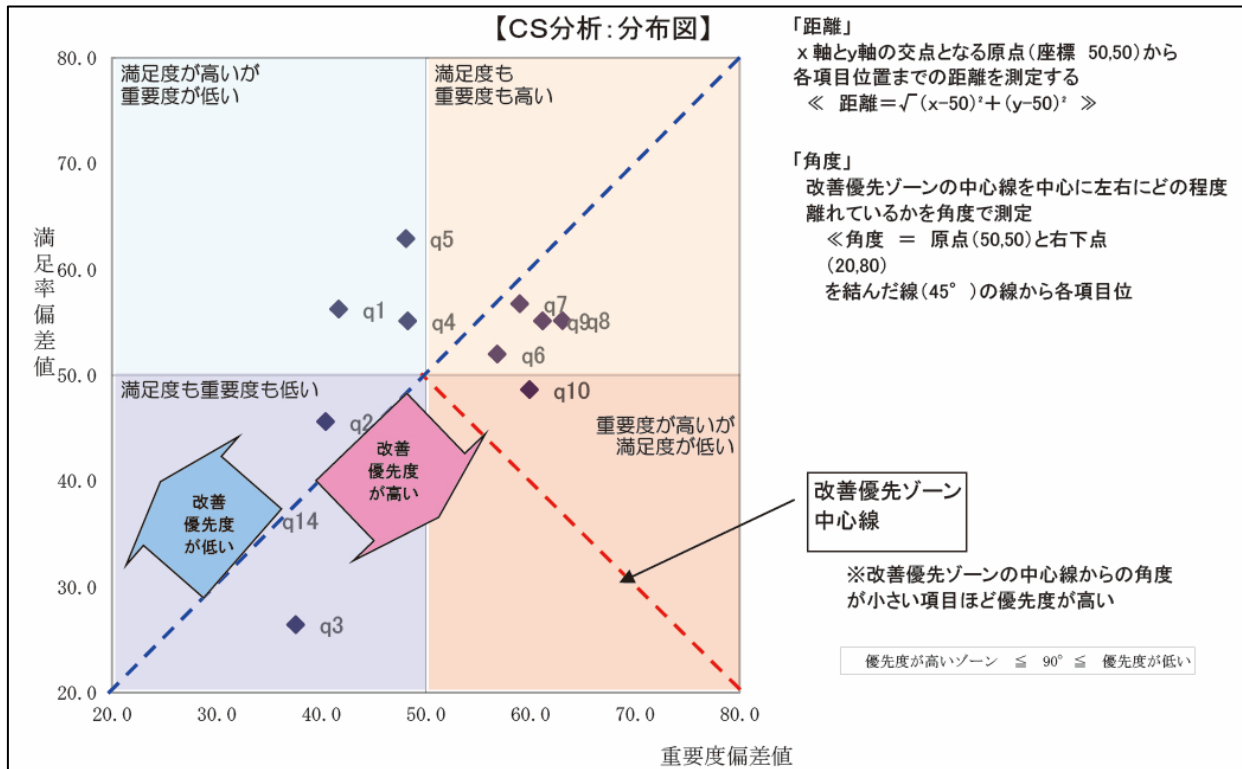


11.2 改善度分析結果

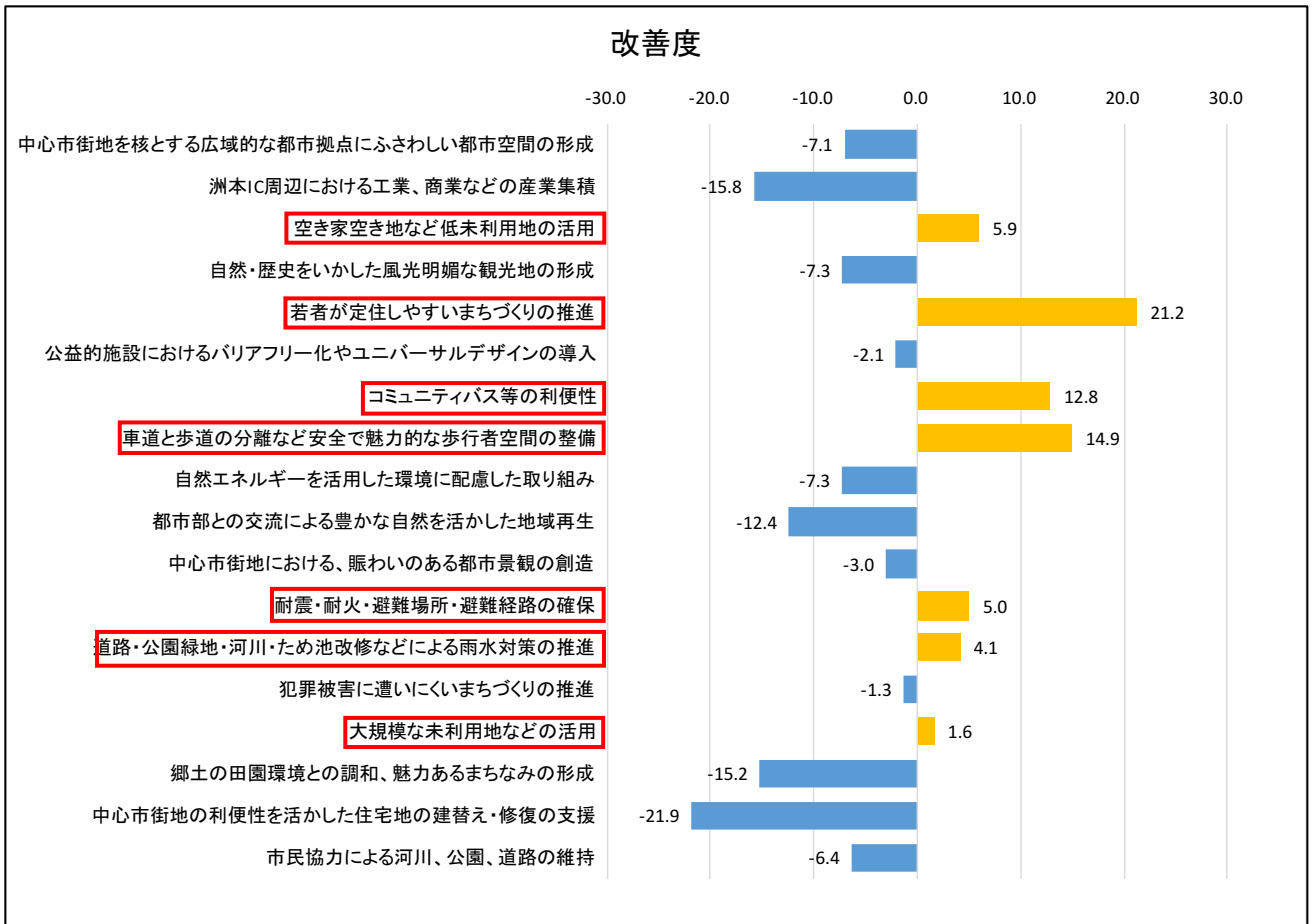
また、満足度と重要度の平均値による分布状況から、各項目の「改善度」を算出した。

「改善度」は以下により算出され、どの項目から重点的に施策を実施すべきか、優先順位を検討する際に用いられる指標である。

改善度は、値が大きいほど改善する必要性が高い項目であり、値が負(マイナス)の場合は改善する必要性が低い項目である。

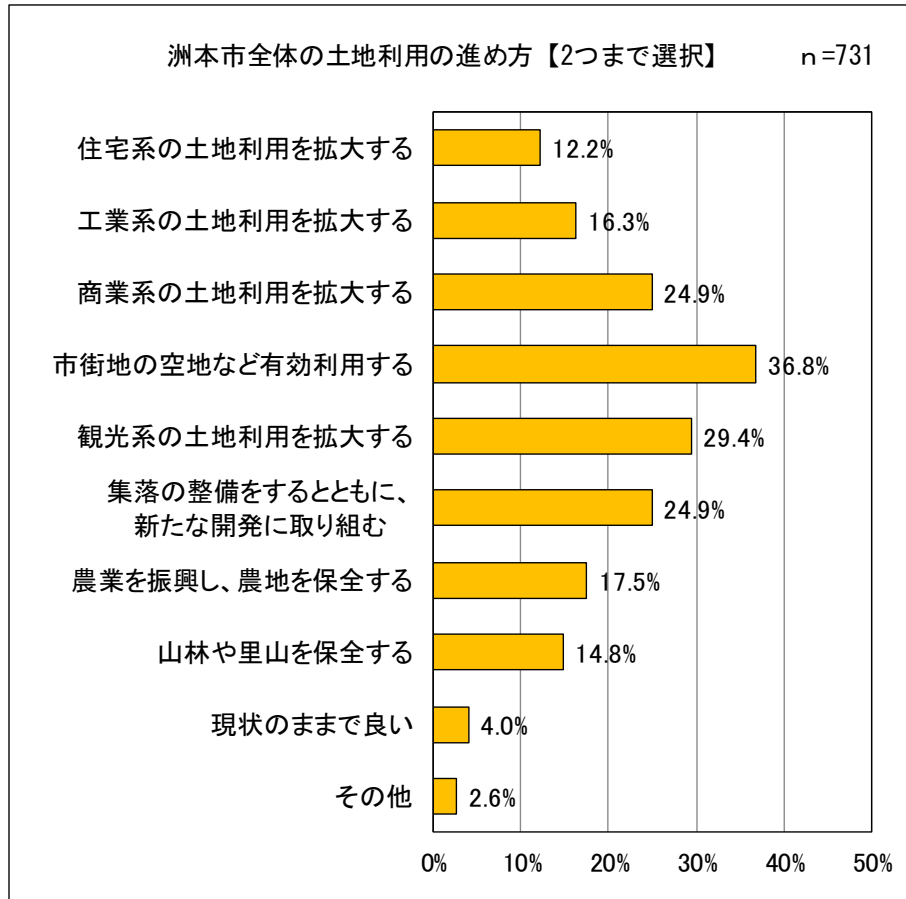


- ・特に改善度が大きな項目として、「若者が定住しやすいまちづくりの推進」があげられる。
- ・次いで、「車道と歩道の分離など安全で魅力的な歩行者空間の整備」、「コミュニティバス等の利便性」があげられる。



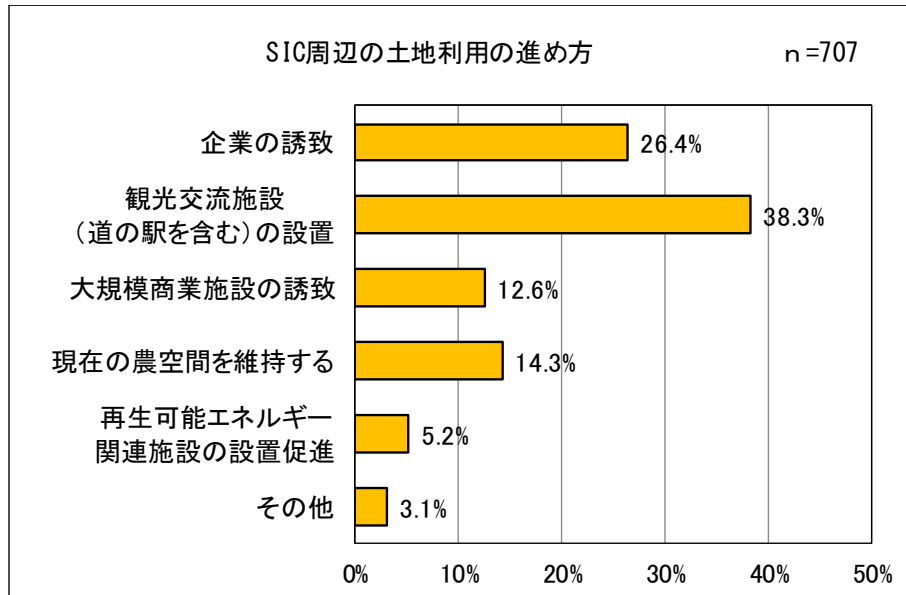
12 土地利用の進め方

- ・「市街地の空き地などを有効利用する」が 36.8%で最多である。
- ・次いで、「集客につながる観光系」(29.4%)、「商業系」(24.9%)、「集落の整備をするとともに、新たな開発に取り組む」(24.9%)となっている。
- ・「現状のままで良い」は 4.0%にとどまる。



13 SIC※周辺の土地利用

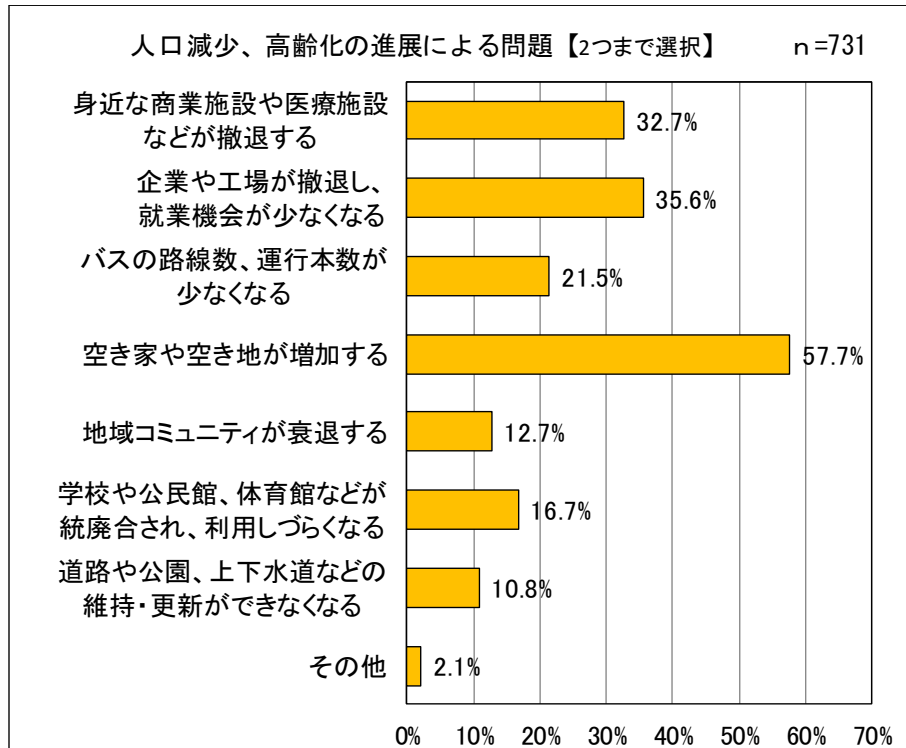
- ・淡路島中央スマートインターチェンジ(SIC)周辺の土地利用をどのように進めていくべきと思うかについては、「観光交流施設の設置」が 38.3%、次いで「企業の誘致」が 26.4%となっている。
- ・一方で、現状維持を望む「現在の農空間を維持する」が 14.3%と一定数みられる。



※平成 30 年に開設。神戸や徳島への移動時間の短縮のほか、観光交流や企業立地による、洲本市の利便性向上やまちの活性化が期待されている。

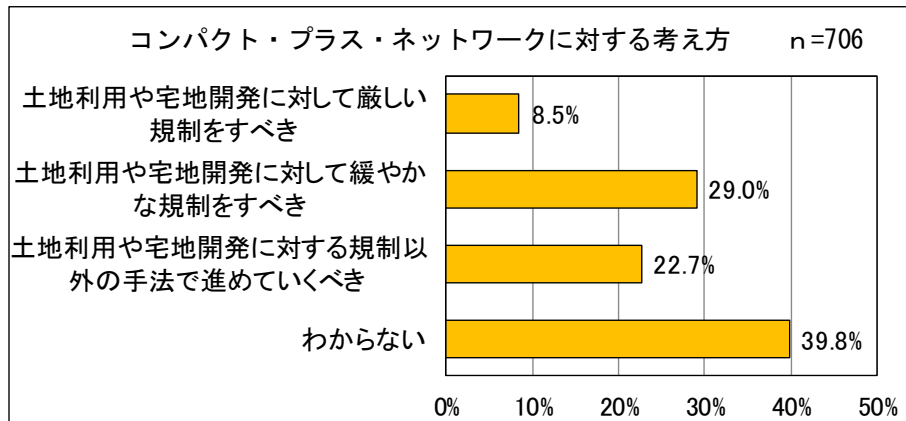
14 人口減少や高齢化の進展による問題

- ・人口減少や高齢化の進展により、どのような問題が生じると思うかについては、「空き家や空き地が増加する」が57.7%と特に高い。
- ・次点の「企業や工場が撤退し、就業機会が少なくなる」(35.6%)と比較しても20ポイント以上の差がある。



15 「コンパクト・プラス・ネットワーク※」に対する考え

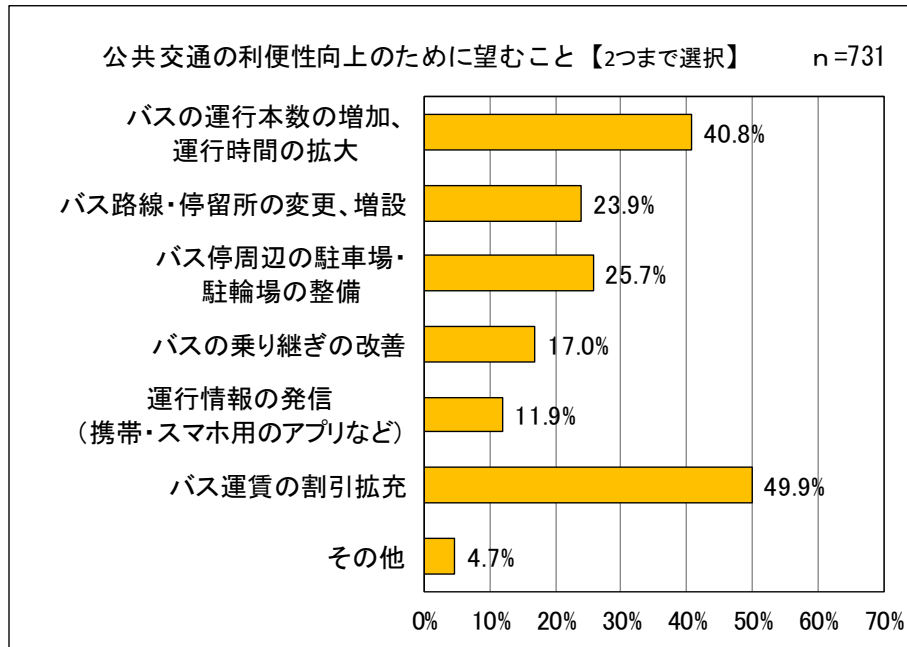
- ・土地利用や宅地開発に対して「緩やかな規制をすべき」が約 3 割、「規制以外の手法で進めていくべき」が約 2 割となっており、「厳しい規制をすべき」は 1 割未満にとどまる。
- ・一方で、「わからない」が約 4 割と最も高く、施策に対する認知度の低さが伺える。



※「コンパクト・プラス・ネットワーク」とは、コンパクトなまちを目指すことで、人口減少や高齢化によって生じる問題を解決しようとする事と。

16 公共交通の利便性向上のために望むこと

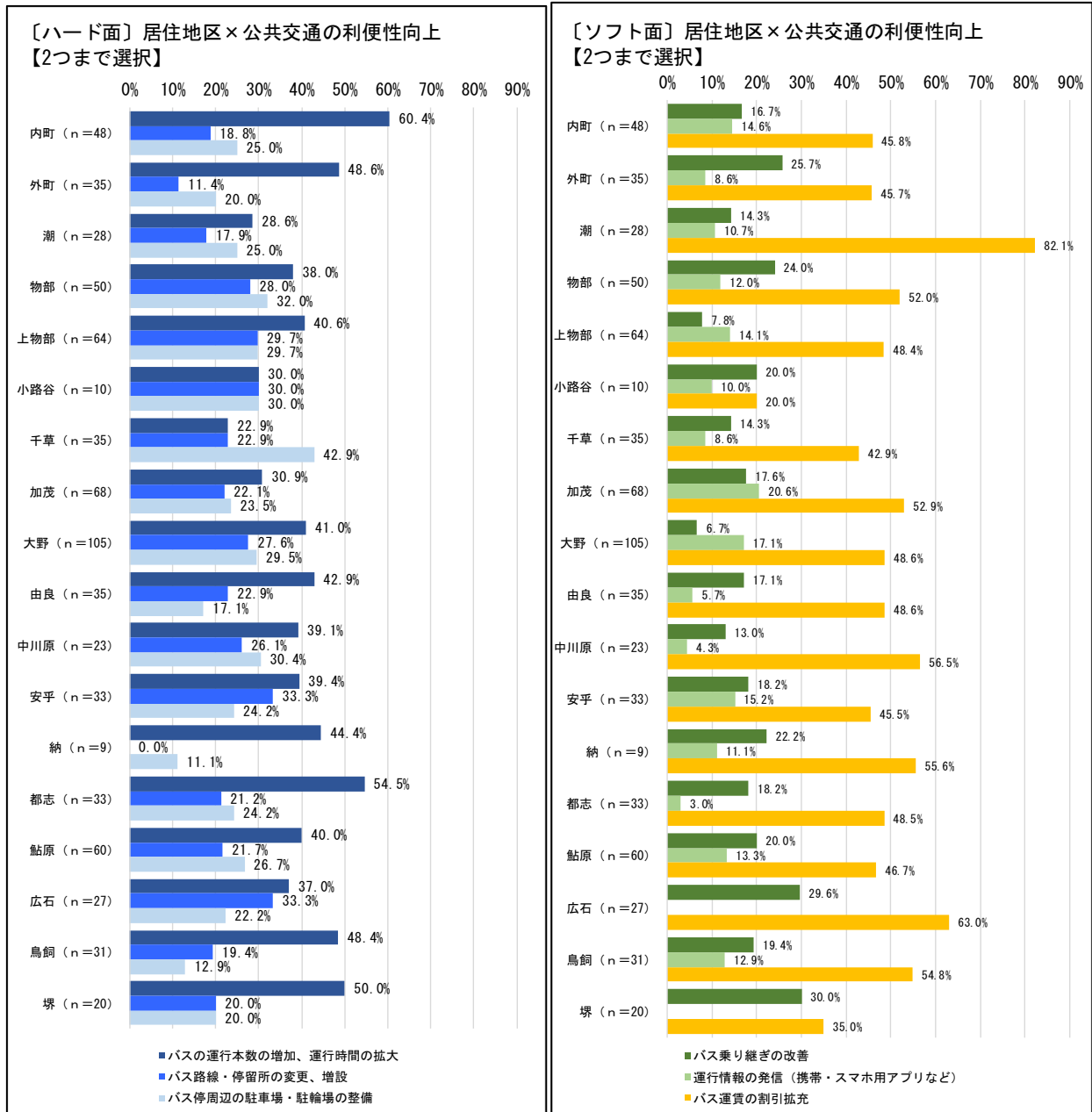
- ・拠点へのアクセスの利便性向上のために望むことについては、「バス運賃の割引拡充」が 49.9%、次いで「バスの運行本数の増加、運行時間の拡大」が 40.8%となっている。
- ・そのほかの選択肢についてはどれも 3 割を超えず、上記二項目に対する希望が特に高いとみられる。



16.1 居住地区別 公共交通の利便性向上のために望むこと

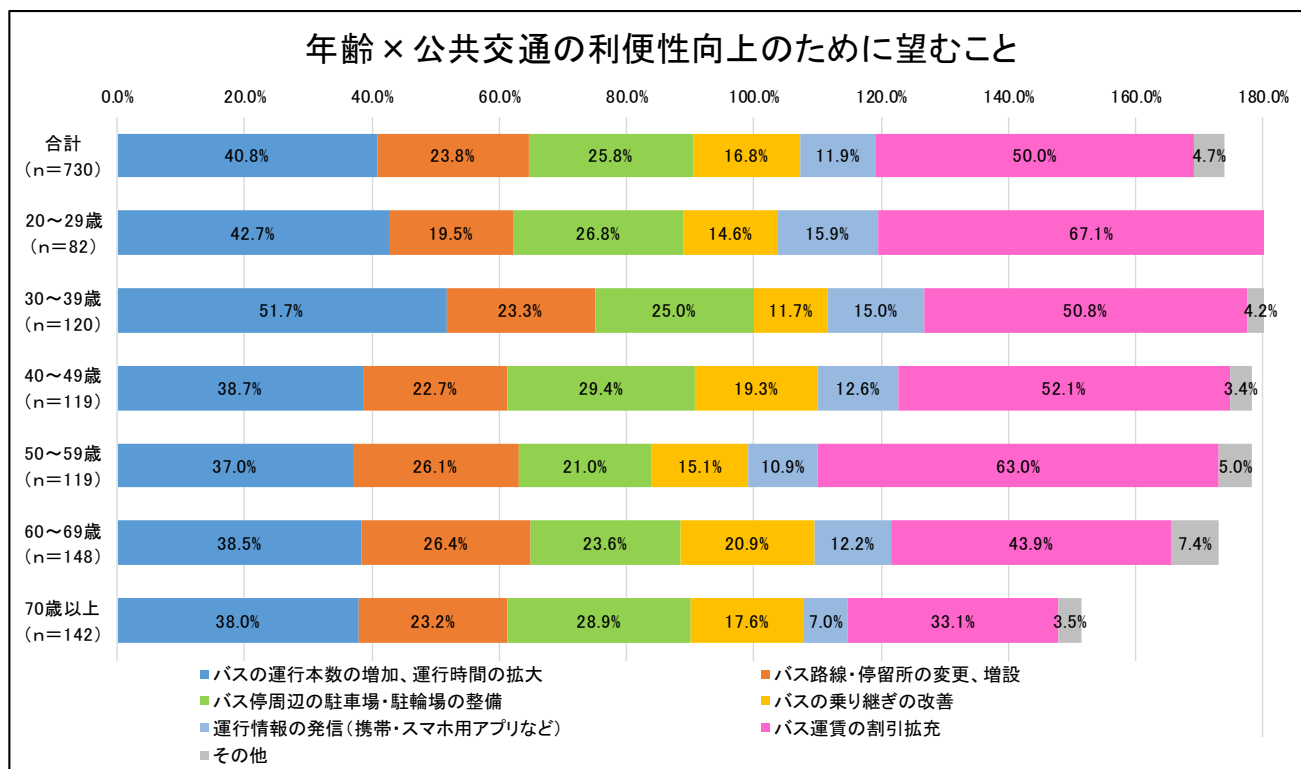
以下、回答者(n)が2人以上の地区について記載。

- ・「バス運賃の割引拡充」が最も選択された割合が高いのは潮(82.1%)、次いで、広石(63.0%)となっている。
- ・運行本数の増加、運行時間の拡大を選択した割合が過半数を上回ったのは、内町、都志となっており、ともに地区内にバスターミナルがあっても本数や時間に不満があることがわかる。
- ・千草は、バス停周辺の駐車場、駐輪場の整備を選択した割合が最も高く42.9%で、同地区内で「バス運賃の割引拡充」を選択した割合と同等となっている



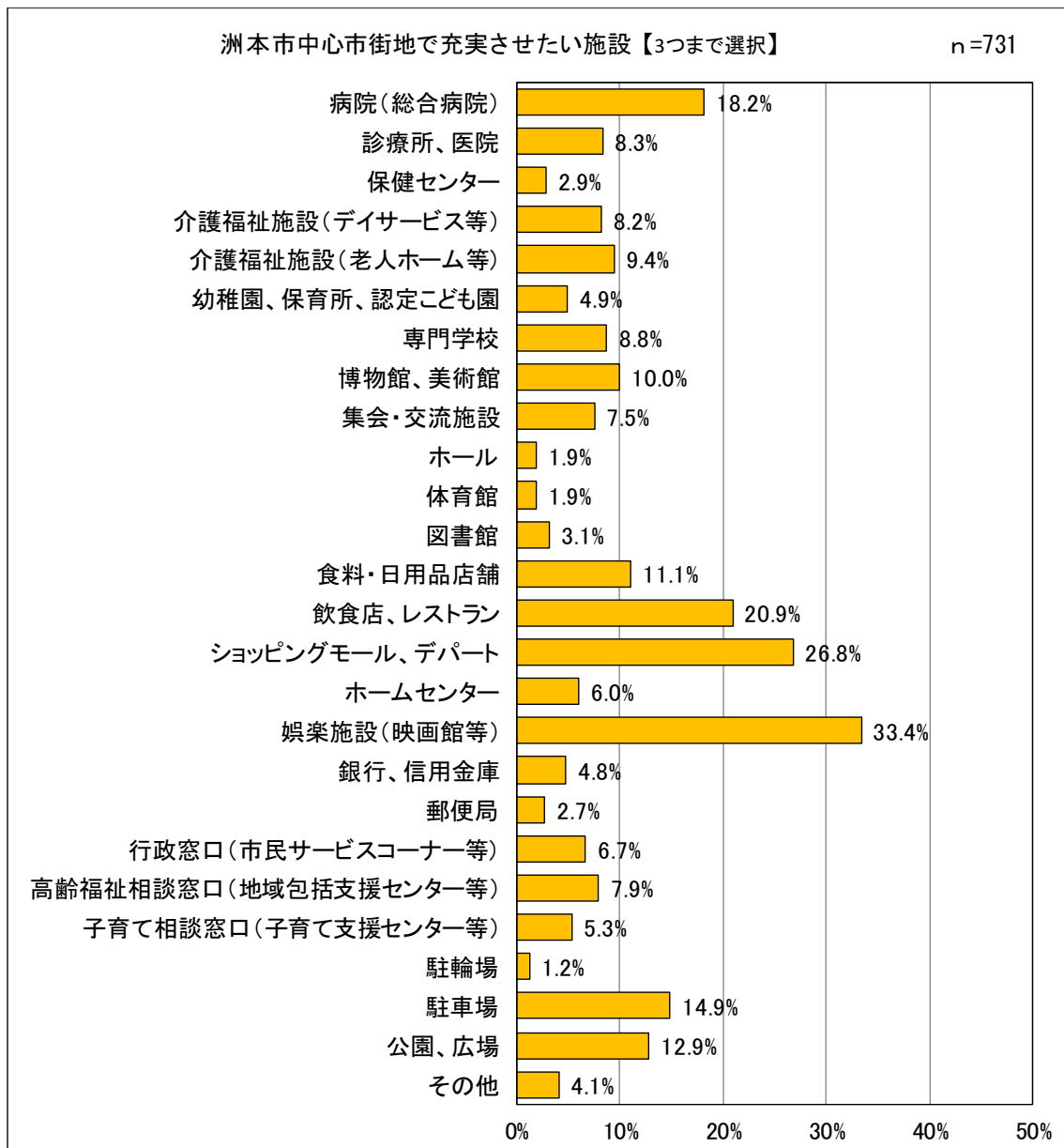
16.2 年齢別 公共交通の利便性向上のために望むこと

・概ねどの世代も、バス運賃の割引充実を選択する割合が高いものの、30～39 歳、70 歳以上については、バスの運行本数の増加、運行時間の拡大が最も高い割合を示している。



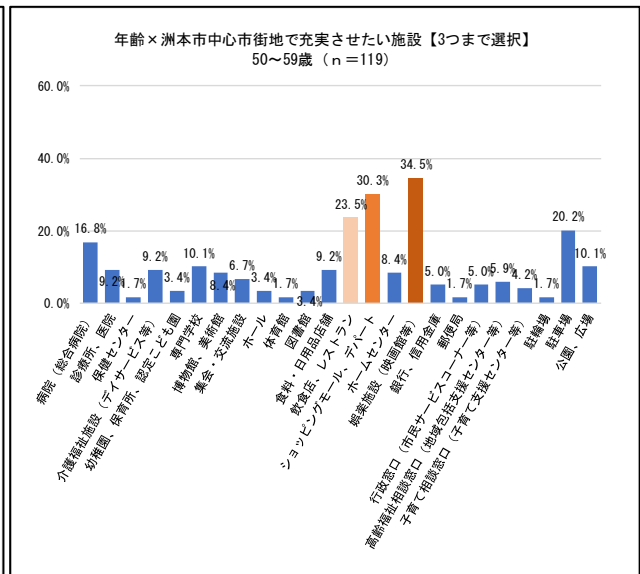
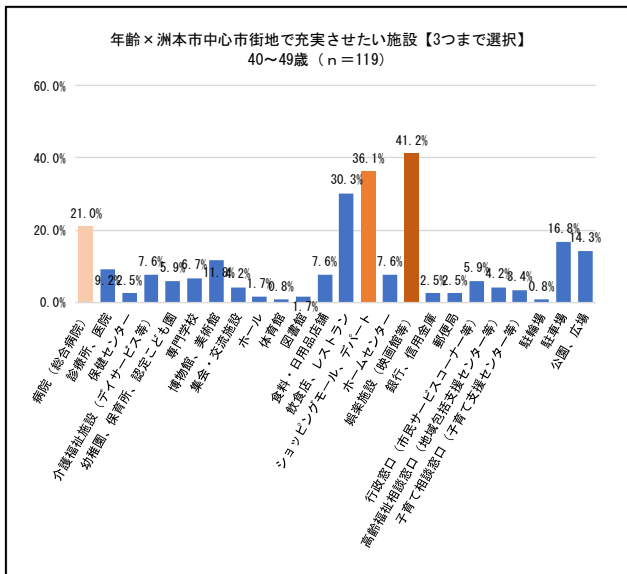
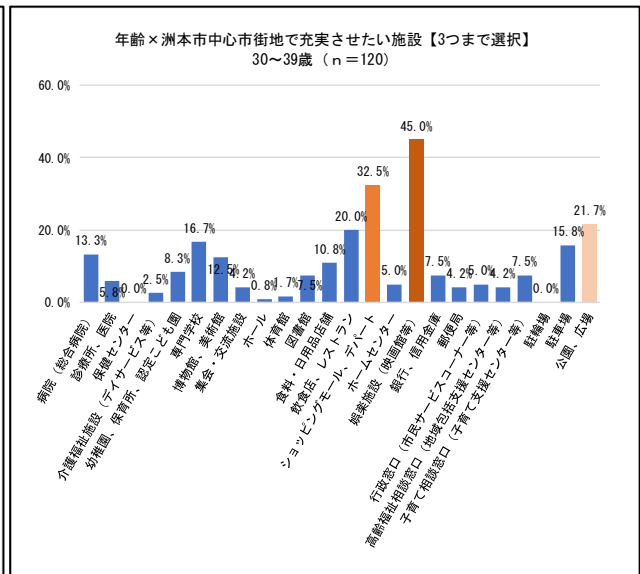
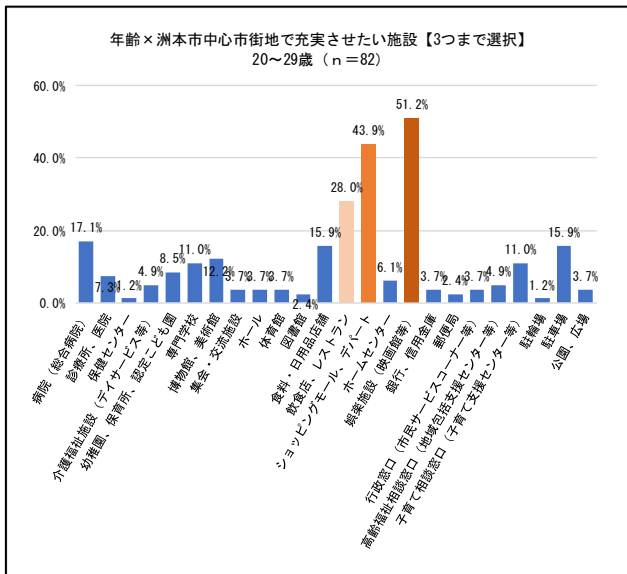
17 中心市街地の施設

・中心市街地で充実させたい施設としては、「娯楽施設(映画館等)」が最も高く 33.4%、次いで「ショッピングモール・デパート(26.8%)」、「飲食店レストラン(20.9%)」となっている。



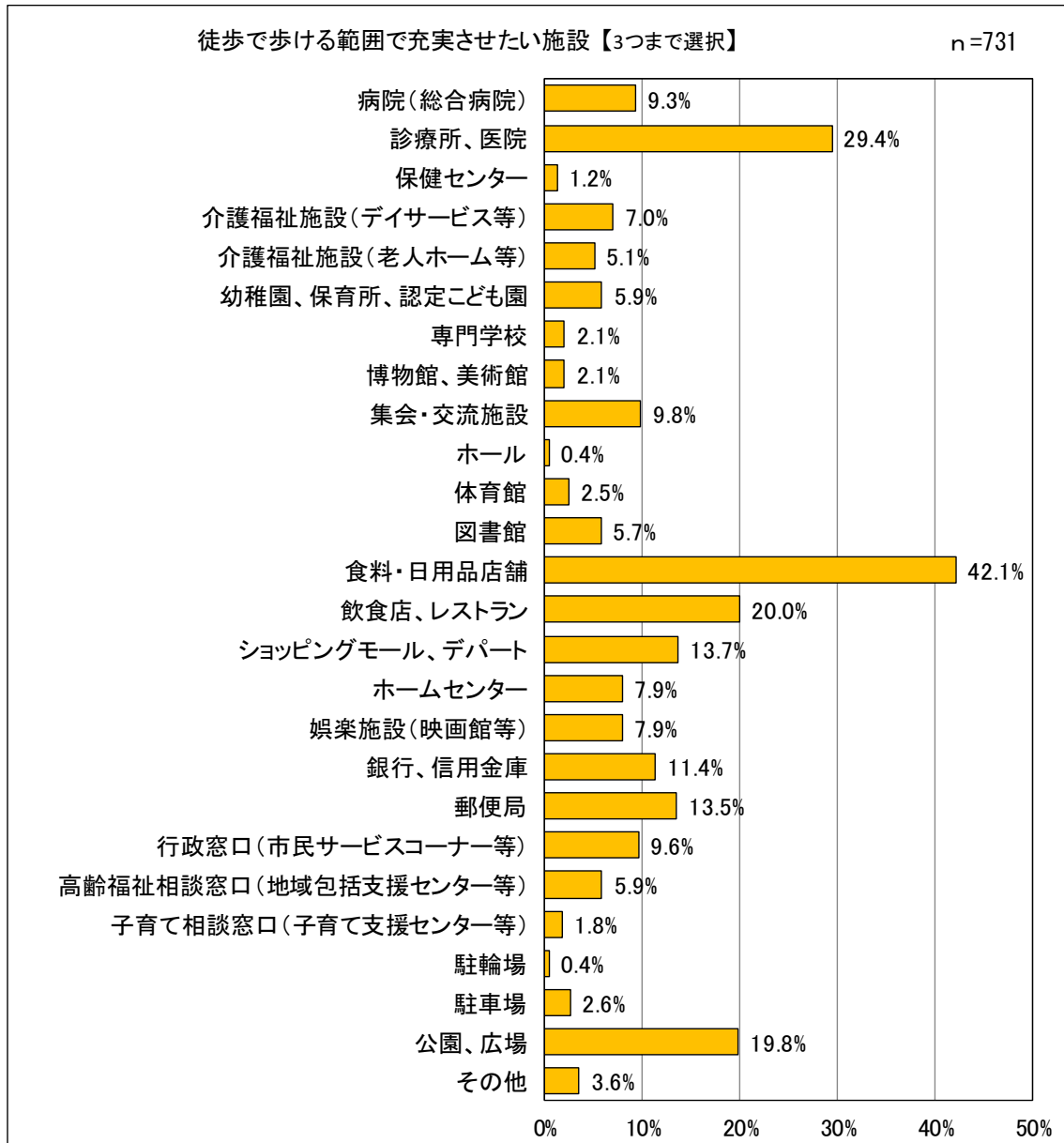
17.1 年齢別 中心市街地の施設

- ・20歳代から60歳代にかけて「娯楽施設」が充実させたい施設として最も多く挙げられ、特に、若い世代ほどその割合が高い。一方で、70歳以上になると「病院（総合病院）」が19.0%と最も高くなった。
- ・また、「ショッピングモール、デパート」についても「娯楽施設」とほぼ同様の傾向を示し、若い世代ほど充実させたい施設として挙げた割合が高い。
- ・20歳代の「公園・広場」を選択した割合は、3.7%と非常に少ないものの、そのほかのすべての世代で10%を上回っており、特に、30歳代の公園を選択した割合は21.7%と最も高くなっている。
- ・「日用品、レストラン」はすべての世代で10%を上回っており、特に20歳代～50歳代にかけて20%を上回っている。
- ・「病院（総合病院）」はすべての世代で10%を上回っており、40歳代および60歳代以上の世代で20%を上回っている。



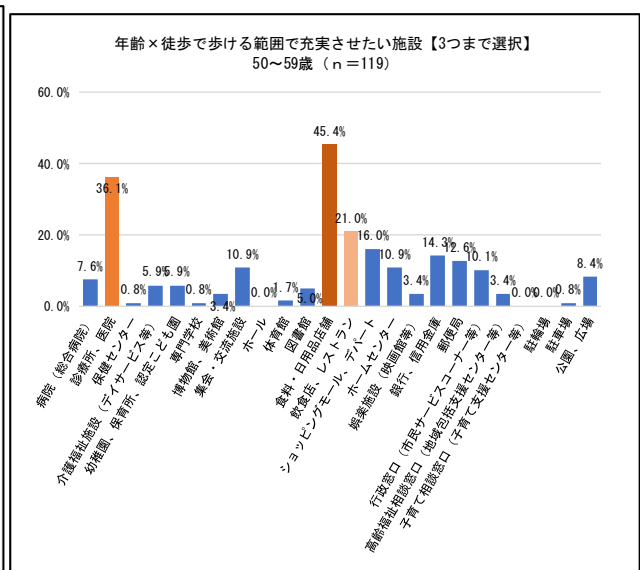
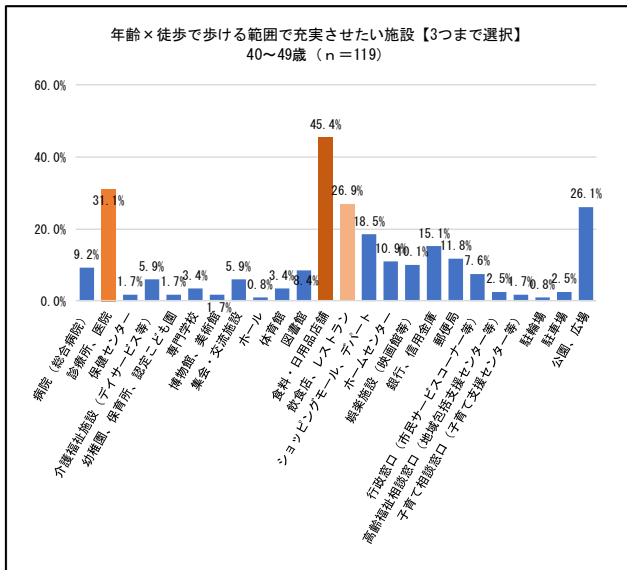
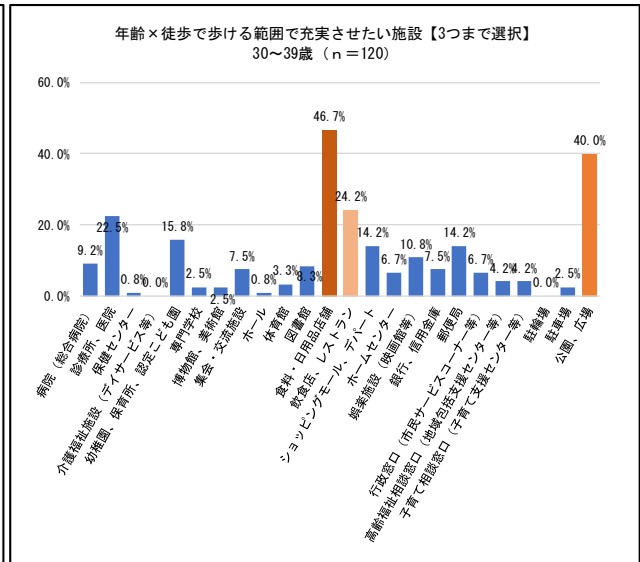
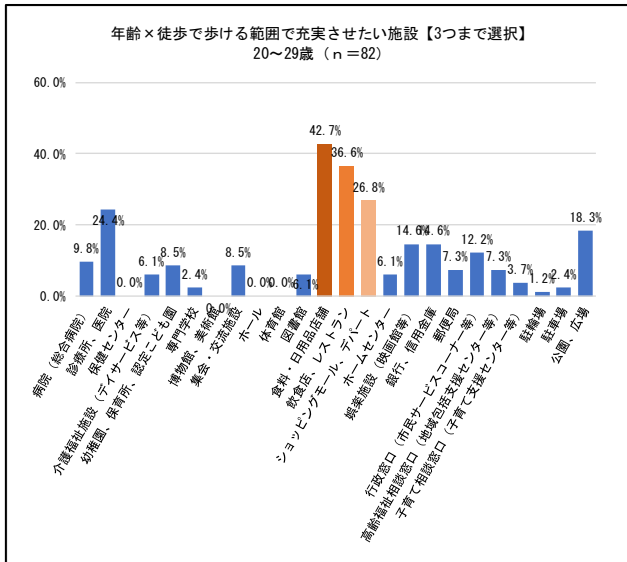
18 徒歩圏内の施設

- ・徒歩で行ける範囲で充実させたい施設については、「食料・日用品店舗」が突出して高く42.1%となっている。
- ・次点の「診療所、医院」(29.4%)と比較して10ポイント以上の差がある。
- ・文化施設のうち、「集会・交流施設」が9.8%と、充実させたいと回答した割合が高くなっている。

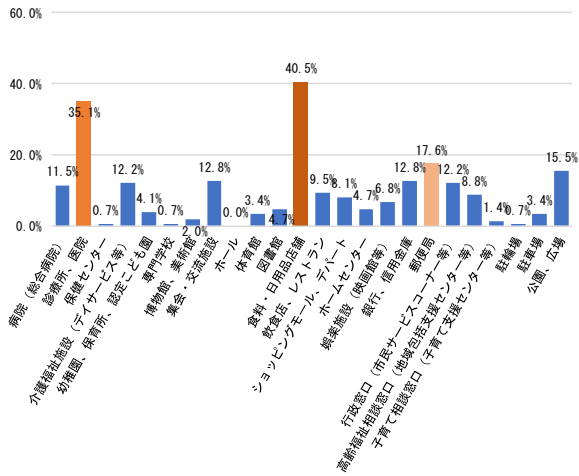


18.1 年齢別 徒歩圏内の施設

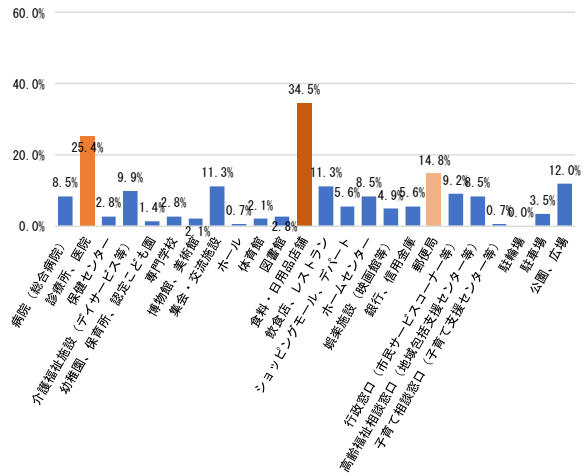
- ・すべての世代で、「食料・日用品店舗」を選択した割合が最も高く、30歳代で、最大となる46.7%、最低は70歳代であるが、それでも34.5%と非常に高くなっている。
- ・40歳代以上からは「診療所・医院」を選ぶ割合が3割を上回るようになり、40歳代以降からは、「食料・日用品店舗」に次いで2番目に充実させたい施設として挙げられている。
- ・20歳代から50歳代にかけては、「飲食店、レストラン」を選択する割合が2割を上回っている。
- ・「公園、広場」を選択する割合が30歳代で特に高く、う%となっている。
- ・60歳代以降からは、「郵便局」を選択する割合が増加し、「食料・日用品店舗」、「診療所・医院」に次いで、3番目に多くなっている。



年齢×徒歩で歩ける範囲で充実させたい施設【3つまで選択】
60～69歳（n=148）



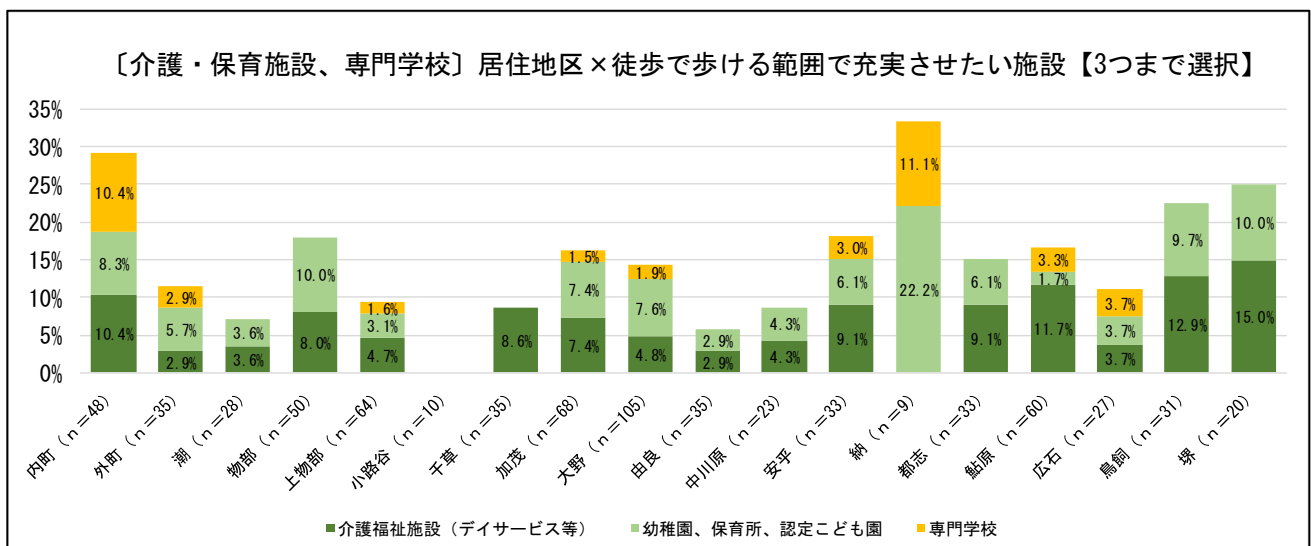
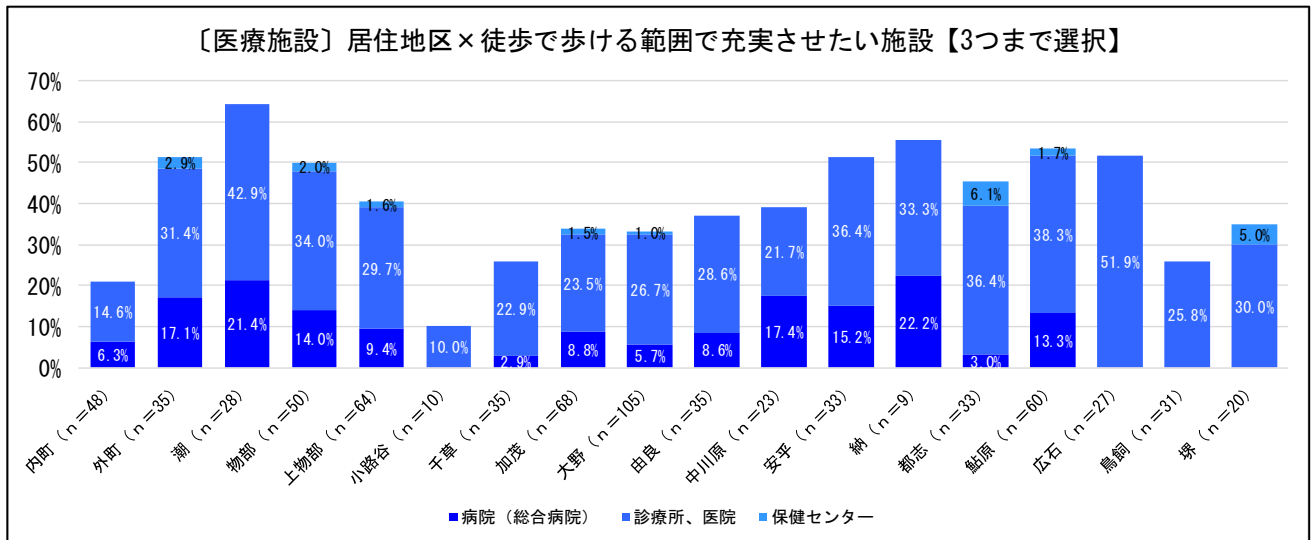
年齢×徒歩で歩ける範囲で充実させたい施設【3つまで選択】
70歳以上（n=142）

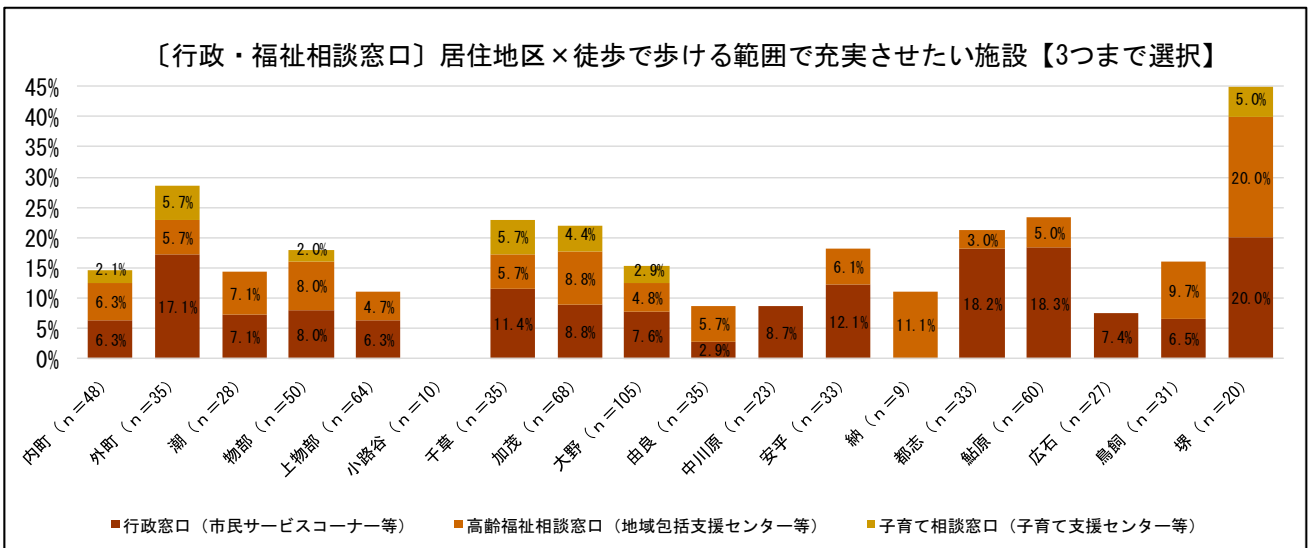
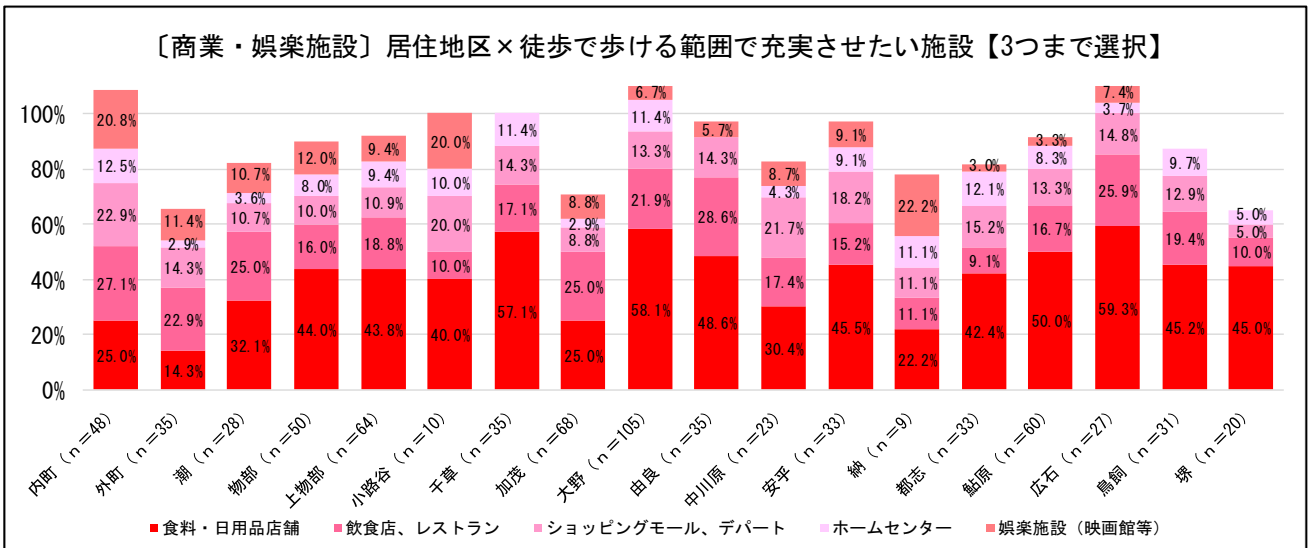
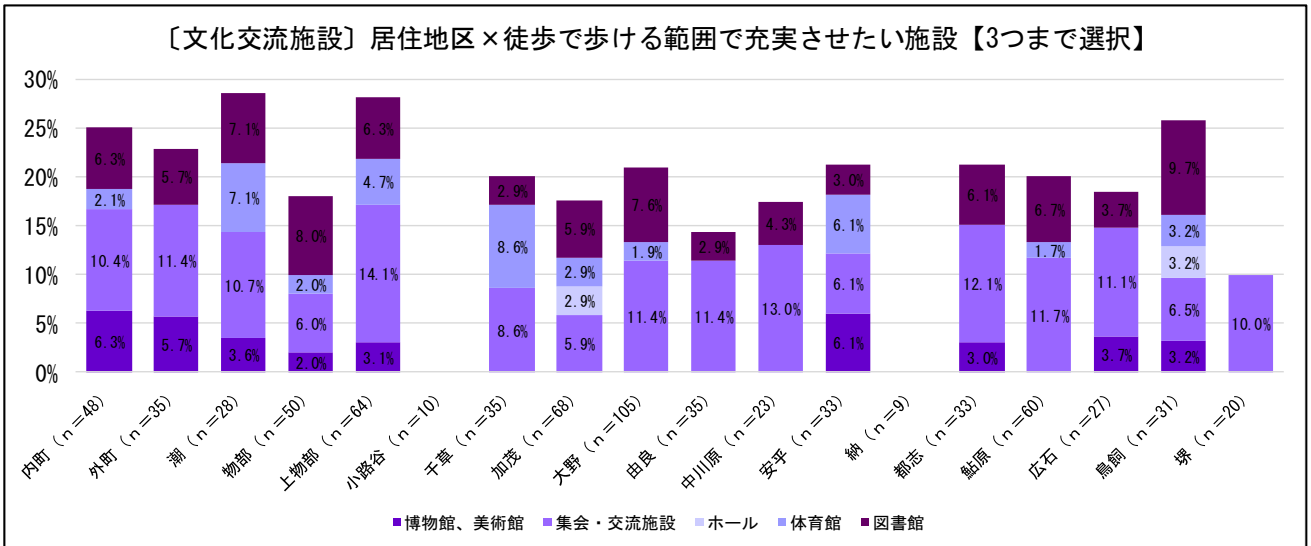


18.2 居住地区別 徒歩圏内の施設

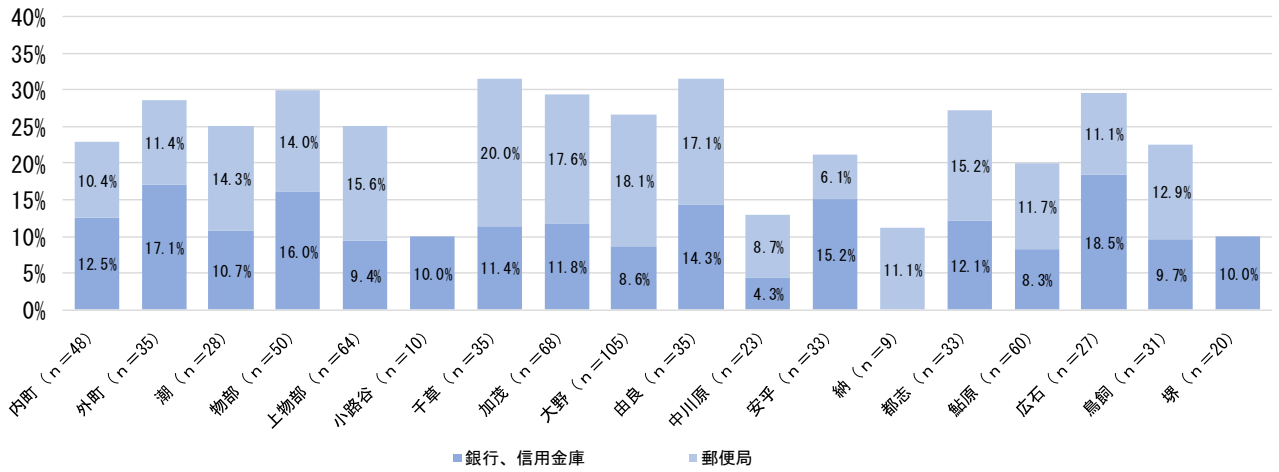
以下、回答者(n)が2人以上の地区について記載。

- ・広石においては半数以上が「診療所・医院」を回答している。
- ・内町、鳥飼、堺においては、医療施設を選択した割合が低い一方、福祉施設を選択した割合が高くなっている。
- ・千草、大野、鮎原、広石においては、50%以上が「食料・日用品店舗」を充実させたいと回答している。
- ・納においては「幼稚園、保育所、認定こども園」を充実させたいと回答した割合が22.2%と突出して多くなっている。
- ・上物部、加茂、納においては、「公園、広場」を回答した割合が30%を上回っている。





〔銀行、郵便局〕居住地区×徒歩で歩ける範囲で充実させたい施設【3つまで選択】



〔駐車場、公園〕居住地区×徒歩で歩ける範囲で充実させたい施設【3つまで選択】

